

はじめに

応用講座^{こようぎ}で勉強を始める小学校六年生みなさま

これから勉強を始めるにあたって、大切なことをまとめておきました。

大事なのは、「今どれぐらいできているか」ではなく、これから勉強をはじめて「どれぐらい理解できるようになるか」です。今より一歩でも前に進めるよう一緒にがんばっていきましょうね。

勉強方法

文章問題

① 読む

——まず文章を読みましょう。

②線を引く

——大切だと思うところにチェックをしましょう。

③問題を解く

——文章の後についてある問題を解きましたよ。
う。

④ 文章の解説動画を見る

——わからないところがあれば、ノートを
とっておきましょう。

※③と④は入れかわってもかまいません。

⑤ 問題の解説動画を見る

——丸つけをしながら、まちがったところを
理解しましょう。

授業動画は《文章（本文）の解説 ↓ 問題の解説》の順で展開されているので、①②の段階で難しく思うのであれば、まず④の解説を見てから問題を解いてください。その後、問題を解いてみましょう。

⑥ 復習

——文章を音読し、意味のわからないところがないか確認。

——また、まちがった問題、正解していたけれどよくわかっていなかった問題をもどって確認しましょう。

知識問題

① 知識の解説動画を見る

——問題を解く前に必ずチャプターの解説
を見てください。

——まちがった考え方で解いてしまうと、ま
ちがった考え方のクセがついてしまうの
で、その前に動画で正しい考え方を理解
してから解きましょう。

② 問題を解く

——考え方を身につけた後に、問題を解いて
みましょう。

③ 問題の解説動画を見る

——丸つけをしながら、まちがった問題の考
え方を理解していきましょう。

④ 復習

——まちがった問題をしっかり見直し、やり
直しましょう。自分の考え方がまちがっ
ていないか確認^{かくにん}したり、覚えないと解け
ないところは暗記したりしてください。

目次

第十一講	文学的文章⑦ p. 75
第十講	文学的文章⑥ p. 66
第九講	文学的文章⑤ p. 60
第八講	説明的文章④ p. 52
第七講	説明的文章③ p. 47
第六講	文学的文章④ p. 38
第五講	文学的文章③ p. 33
第四講	説明的文章② p. 24
第三講	説明的文章① p. 18
第二講	文学的文章② p. 10
第一講	文学的文章① p. 5

第十二講	文学的文章⑧ p. 80
第十三講	説明的文章⑤ p. 89
第十四講	説明的文章⑥ p. 94
第十五講	文学的文章⑨ p. 104
第十六講	文学的文章⑩ p. 109
第十七講	詩 p. 118
第十八講	短歌・俳句 p. 127
第十九講	品詞① p. 137
第二十講	品詞② p. 143
第二十一講	品詞③ p. 152

第一講 文学的文章①

◆人物・場面をとらえる

人物とは「だれが」のことです。場面とは、「いつ」「どこで」のことです。この二つに、事件（「どうして」「どうなった」）を加えた三つを「物語の三要素」といいます。物語には必ずこの三つの内容が入っており、この三つをとらえることが物語を読みこなすことにつながります。

(1) 人物像のとらえ方

物語には、さまざまな人物が登場します。登場人物の性格・人柄・個性のことを人物像といえます。

① 直接表した言葉に注目する……「やさしい」「短気」など。

② 外面的な特徴をおさえる……職業・服装・顔つきなどをおさえましょう。

③ 内面的な特徴に注目する……感じ方・考え

方・性格などを、表情や態度、言動からつかみましょう。

(2) 場面・事件のとらえ方

場所や季節、時刻などだけではなく、どんなできごとがあつたのか、どんな状況なのかをつかみます。

① できごと……だれが、いつ、どこで、何をしたのか、その場で何が起こったのかをしっかりとっておさえましょう。

② 状況……できごとやその場にいる人物の様子をおさえ、その場面がどのような様子であるのかをとらえましょう。



一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

小学六年生の二郎^{じろう}たちは、引っこすことになった幼なじみの克ちゃんのお別れ会として、多摩川の源流^{げんりゅう}をたどるキャンプに出かけた。

翌朝^{よくあさ}四時半に、セツトした目ざまし時計が鳴った。四樹^{しき}だけはまだよく眠^{ねむ}っていたが二郎、克ちゃん、和也^{かずや}、久里^{くり}は起きだした。

きのうの夜、八時半に、四樹といっしょに寝^ねたので、睡眠^{すいみん}はじゅうぶんにたりていた。体調が万全^{ばんぜん}なしよに源流の道をたどる最後のチャンスだ。みんなそろって、多摩川のはじまり、水干^{みずひ}まで登るのだ。

② バテてなんかいられない。

かなり冷えこんでいるが、天気は晴れだ。まだ梅^つ雨のさなか、ラッキーだった。

克ちゃんが火をおこして、久里がカレースープを作っている間に、二郎と和也で、寝袋^{ねぶくろ}を丸めて袋に

10

しまったたり、他の荷物を片づけた。

五時には、四樹を起こして、カレースープとパンの朝ごはんを食べた。食べている間じゅう、四樹^③は、いっになく無口だった。

「四樹ちゃん、まだ眠いの？」

と、久里が聞いた。

「ううん。眠くない。なんだかここがズキズキするの。」

と、四樹は緊張^{きんちよう}したようすで心臓^{しんぞう}のあたりを押さえた。

食べ終わると、すぐに出発した。今日一日の行程を考えたら、一分もむだにしくなかつた。鍋^{なべ}は水につけておいて、帰ってから洗うことにした。

みな、デイバック^{*2}を背負^{せお}っている。中には、雨具、コップ、水とおやつが少し入っているだけだ。が、

その少しの荷物も、四樹には持たせないほうがいいと考えて、二郎は自分のデイバックに入れてやった。

④ 四樹がバテたら、今日のいっさいの予定は、狂^{くる}てしまう。

30

15

20

25

キャンプ場の奥から、森の中を二十分くらい歩いたら、車道に出た。さらに、十五分ほど車道を行くと、笠取山の登り口、作場平に着いた。

そこから、山道がはじまる。「源流の道」と呼ばれているコースだ。

「わたし、先頭を行く。」

40 といって、地図を持っている久里が、登りはじめた。

「四樹、久里のあとについていけ。」

と二郎がいうと、四樹は緊張した顔で、うなずいた。

二郎と克ちゃんと和也が、そのあとからついていく。

川の流れの音を聞きながら、うつそうとした木立の中の、ゆるやかな坂道を登っていった。朝六時過ぎ。まだすずしい。

「チチチチ……」と、鳥の鳴く声が聞こえてくる。

久里は、帰りのことを考えているらしく、けっこ
う早いペースで登っていく。四樹の、ハアハアとい
う息の音が聞こえてくる。じきに、汗ば^{あせ}んできた。

やがて、三十分ほど登ったところ、二本の川が合流

している所にぶつかった。久里が地図を見て、

「多摩川の本流は、こつちだよ。」

と、右の支流を指さした。

道は、そこから本流をはなれて、森の中へと続い
ていく。

「このあとは笠取小屋の近くに行くまで、もう水はないから、ここで飲んでいこう。」

と久里がいつて、休けいした。

(三輪裕子 『最後の夏休み』)

*ー四樹は二郎の妹で、小学一年生の女の子。二郎は、家の事情で、四樹を連れてキャンプに参加した。

*2 デイパック ハイキングなどに用いる小型のリユツクサツク。

問一 — 線① 「二郎、克ちゃん、和也、久里は起

きだした」とありますが、キャンプ場を出発するまでの四人の様子として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 多摩川のはじまりを見るのが楽しみで、はしゃいでいる。

イ 時間を有効に使うために、てきぱきと行動している。

ウ 余裕をもって行動できなくて、いらいらしている。

エ 計画どおりに行動しなくてはいけないと思います、緊張している。

☐

問二 この日の目的地はどこですか。文中から二字

で書きぬきなさい。

☐

問三 — 線② 「バテてなんかいられない」は、だ

れの思いですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 四樹 イ 二郎 ウ 克ちゃん

エ 和也 オ 久里

☐

問四 — 線③ 「四樹は、いつになく無口だった」

とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分だけ五時まで寝ていたことを申し訳なく思ったから。

イ 朝早くに起こされて、きげんがよくなかったから。

ウ つかれていたため、口をきく元気がなかったから。

エ 歩き切れるかどうか心配で、緊張していたから。

☐

線④ 「四樹がバテたら、今日のいつさい

今日は、幼なじみのみんながそろって多摩川の
 □だから。

線⑤ 「四樹、久里のあとについていけ」

とありますが、このように二郎が言ったのはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア これ以上歩かせるのは無理かもしれないと不安になったから。

イ 久里のあとをついていけば登り切れると
思ったから。

ウ　少しでも緊張をほぐしてあげたかったから。

工 四樹のめんどろをみたくなかったから。

7

この場面から考えて、久里はどんな女の子だ

とわかりますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 判断力と行動力があり、みんなをまとめられる女の子

イ
思
い
ど
お
り
に
な
ら
な
い
と
気
が
す
ま
な
い、
自

分勝手な女の子

ウ 自分に対しても人に対しても厳きびしい、気の

強い女の子

工 弱い人のことには気が回らないが、明るく
元氣な女の子

1

第二講

・文学的文章②



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

川は、幅一メートルほどの小さな流れだ。川の縁までおりていくと、空気がAした。

「すごく水がきれい。」と、久里がいった。

みんなは、澄んだ川の水を飲んだり、顔を洗ったりした。汗をかいていたので、冷たい水が気持ちいい。

和也は水筒を出すと、キャンプ場で入れてきた水を捨て、川の水を入れた。

「多摩川の子どもだね。」と、四樹はいった。

少し休んで、出発した。再び、森の中の道を登っていく。

一休坂に入ったあたりから、道は急になり、四樹のペースが落ちた。少し登っては、立ちどまるよう

になった。

「歩くのおそくするからね。四樹ちゃん、とまらないうで、ゆっくり歩きつづけなきゃだめだよ。」と、久里がいった。

まだたいして登っていないうちからバテているよ。うなのが、二郎の気にかかった。笠取山は、最後の登りが、急な山なのだ。

しばらく登った所で、小さな流れを横切った。多摩川の支流の沢だ。そこからは、沢沿いの急な坂道を登っていった。

しだいに暑くなってきた。森の木々の葉の間から、日の光がもれてくる。山に太陽が当たりはじめたのだ。四樹の足が、少しふらつくようになった。それを見て久里が、

「少し休もう。」といった。

二郎がコップをわたすと、四樹はチヨロチヨロの

10

5

25

20

15

流れから水をくんで、ごくごく飲んだ。みんなも、次々に飲んだ。

30

笠取小屋に着いたのは、八時過ぎだった。小屋の前の広場に、テーブルとベンチがいくつか置いてある。

「もう、だめ。」

35

四樹が、ベンチにぺたんと座りこんだ。

「もう、歩けない。」と、情けない声でいう。

先を急ぎたいところだけど、また少し休んでいくことにした。こんな所に、四樹だけ置いていくってわけにはいかない。

40

②「ほら、ぼくら、もうこんなに高く登ったんだぜ。」
と、克ちゃん^{かつ}が遠くの山^{やま}並^なみを指さした。

山々は、下のほうに見えた。

「水干^{みずひ}までは、もうちょつとだよ。」

③「多摩川の赤ちゃん、見にいこう。」

45

和也と久里の言葉に、④四樹はこくんとうなずいた。

再び登っていくと、木々がまばらになり、クマザサのおいしげる平らな所に出た。真っ白い入道雲が、

B わきでている。正面には、笠取山の山頂^{さんちよう}が、
こんもりと隆起^{*リウキ}しているのが見えた。

50

やがて、笠取山へ行く道と、水干に行く道^{*ミヅ}との分岐^きに出た。本当なら、あまり暑くならないうちに、まっすぐ笠取山の頂上をめざしたいところだ。けれど、まだ四樹に力が残っているうちに、多摩川の最初の一滴^{いってき}を見せてやったほうがいいと、二郎は思った。今のようすじゃ、四樹がどこで力つきるかかわらない。

55

久里も克ちゃんも和也も同じ意見^⑤だったので、笠取山に行くルート^{*3}からはずれ、水干に行くわき道に入ってしまった。

60

(三輪裕子^{みわひろこ}『最後の夏休み』)

*1 隆起^{リウキ} 土地などのある部分が高く盛り上がること。

*2 分岐^{ぶんぎ} (道などの) 分かれめになっている所。

*3 ルート 道すじ。経路。

問一

A・Bにあてはまることばとして最も

適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア どんよりと イ ひんやりと
ウ もくもくと エ ざわざわと

A

B

問二

——線①「四樹のペースが落ちた。少し登っ

ては、立ちどまるようになった」とありますが、このあと、四樹の足どりにつかれが見えてきました。そのことがはつきりとわかる一文を文中からさがし、その初めの五字を書きぬきなさい。

問三

——線②「ほら、ぼくら、もうこんなに高く

登ったんだぜ」とありますが、こう言ったときの克ちゃんの気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア こんなに高い所まで登ってこられたので、もう十分だと満足する気持ち

イ こんなに高い所まで登ってきたんだと、自分たちのペースの速さにおどろく気持ち

ウ つかれきってしまった四樹を、少しでもはげましたいという気持ち

エ 「もう、歩けない。」と情けない声を出した四樹に、いらいらする気持ち

問四

——線③「赤ちゃん」とありますが、ここでは「赤ちゃん」は何を指していますか。文中から五字で書きぬきなさい。

問五

——線④「四樹はこくんとうなずいた」から感じられる四樹の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
ア つかれてはいるけれど、もう少しがんばってみよう。
イ もう少し歩けば水干に着くなんて、うれしい。

ウ 早く多摩川の赤ちゃんを見てみたい。
エ 本当にもうちよつとなのか、あやしい。

--

問六

——線⑤「同じ意見」とありますが、具体的にはどんな意見ですか。文中から三十七字でさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

問七

この文章では、二郎たちはどんなコースを歩いていますか。次のうちから四つ選び、順に記号で答えなさい。

- ア 笠取小屋
- イ 一休坂
- ウ 多摩川の水干
- エ 多摩川の水干に行くわき道
- オ 笠取山へ行く道と水干に行く道の分岐
- カ 笠取山の山頂

↓
↓
↓

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

多摩川の最初の一滴は、土からしみだし、岩をつたってポタツ、ポタツと、したたり落ちていた。上には大きな岩が突き出している。何も書いてなければ、見のがしてしまいそうな、ふつうの山の斜面だった。

5

けれど、そこには、『水干。多摩川の源頭。最初の一滴。東京湾まで138km』

と書かれた杭が、しっかりと立っている。

「多摩川の赤ちゃんだ。」

それまで、むつつりと歩いていた四樹が、はじめ

10

て笑った。

「克ちゃん、ほら。」

といって、二郎は、リュックの中からコップを出してわたした。すると、克ちゃんは、

15

「ううん。」

と首をふって、いった。

「四樹ちゃん、水ためて飲みなよ。」

「そうしなよ。」と、和也もいう。

① やつと、多摩川の最初の一滴にたどりついたのだ。

だ。だれだって、すぐに飲んでみたい。でも、みんなはその役を、四樹にゆずってくれようとしていた。

久里までが、笑ってうなずいたのを見て、二郎は

コップを四樹にわたした。

四樹は神妙な顔で、水が落ちてくる下にコップを

置いた。

25

一滴ずつたまっていく水を見ていた四樹が、突然

目をつぶって、両手を合わせた。

「何してんだよ。」と、二郎は聞いた。

「お祈り。」と、四樹が答える。

「神さまってわけじゃないんだぞ。」

と二郎が笑うと、すぐに久里が、

「ううん。ここ水神さまがまつてあるんだって。」

といって、大きな岩の上のほうを指さした。そこに

は、『水神社』と書かれた石板がある。それから、

35

問一

線① 「やっと、多摩川の最初の一滴にたどりついたのだ。だれだって、すぐに飲んでみたい」とありますが、「多摩川の最初の一滴」をだれがいちばん先に飲むかについて、適当でないものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 二郎は、もうすぐ引っこしてしまいう克ちゃんに飲ませてあげたいと思った。

イ 克ちゃんは、がんばって歩いてきた四樹に飲ませてあげたいと思った。

ウ 和也は、克ちゃんの意見に賛成して、四樹に飲ませてあげたいと思った。

エ 久里は、みんながまんしてまで、四樹に飲ませてあげるのをおかしいと思った。



問二

線② 「ちよつとの間、だれも口をきかなかった」とありますが、それはなぜだと考えられますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア いくらお祈りをしても、もう二度と克ちゃんには会えないと思い、悲しくなったから。

イ 四樹のお祈りの内容を聞いて、改めて克ちゃんと別れることを思い、さびしくなったから。

ウ 四樹のお祈りによって、多摩川の源頭に着いた喜びがうすれてしまい、腹立^{はらだ}たしかつたから。

エ 神さまがまつてあるかどうかも知らずにお祈りしている四樹が、かわいそうだったから。



問三

線③「ぼくが引っこすところ、この一滴が、

ずっと流れていく東京湾のもとと先の、太平洋の海の真ん中にあるんだ」とありますが、克ちゃん、みんなにどんなことを伝えたいのだと考えられますか。次の□にあてはまることをばを文中から九字で書きぬきなさい。

□が流れていく先の太平洋の真ん中に、自分がこれから住む島があるのだから、またみんなに会えるということ

問四

「水干」は、どんな場所ですか。次の□にあてはまることを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

一見ふつうの

だが、

--

からしみだした水は、岩をつたってしたたり落ちていて、この水が多摩川の水となる。また、

その上には

と書かれた石板があり、

□

がまつられている。

第三講 ・ 説明的文章 ①



◆ 指示語

指示語とは、「これ・そこ・あの・どっち」などの、物事を指し示すことばで、「こそあどことば」ともいいます。

(1) 指示語の指示内容のとらえ方

指示語の指示内容は、ふつう指示語の前にあります。指示語に近いところから順に前にもどりながらさがしましょう。

(2) 指示語に置きかえられる形にする

ことばの終わりを変えるなどして、指示語にあてはめて文の意味が通じるような形に整える必要がある場合があります。

◆ 接続語

接続語とは、語句と語句、文と文、段落と段落などをつなぎ、その関係や意味のつながりを示す

ことばです。

1 前の内容があとの原因・理由となる（順接）

…だから・すると・したがって・それで・そこで など

2 前後の内容が逆になる（逆接）

…しかし・でも・ところが など

3 前の内容にあとの内容を並べたり、付け加えたりする（並立・累加）

…そして・また・さらに・そのうえ など

4 前後の内容を比べたり、どちらかを選んだりする（対比・選択）

…それとも・または・あるいは など

5 前の内容に説明や補いをする（説明）

…つまり・なぜなら など

6 前と話題を変える（転換）

…さて・ところで・では など

…さて・ところで・では など

一 題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

わたしはニューファンドランドを抱き、指をすべらせて体を調べた。

頭を除いた犬の体は、おおよっぱに二つの部分にわけられる。前半身と後半身だ。後半身には腸や肝臓などがしまわれている。前半身には何本ものろっ骨に守られて肺がある。

胸が厚くて、肺の部分が大きいのである。なるほど、だから浮くのかと納得した。

泳いでいる犬を追いかけて、わたしはもぐり、水の中からながめてみた。と、これまた予想とはまったくちがつていた。

体がななめになっているのである。

人だと、体はまっすぐ後ろに伸ばしている。伸ばしておいて、足をばたつかせたり、かえるみたいに動かしたりして推進力を得ている。(A)、犬の場合、体の後ろ半分は深く沈んでいて、後ろ足を交

互に動かして前へと進んでいた。

水難救助犬として、水に浮かんで仕事をするために、 が大きな役割をはたしているのが一目りようぜんだった。

近づいて、体にふれてみた。(B)、わたしの指がふれたところから空気の泡が飛びだし、銀色に光りながら上にのぼっていった。

「ああ、そうか。」

またまた目からウロコが落ちた。

ニューファンドランドは、寒い北の島で誕生した品種だ。下毛は長く、しかも密生している。彼らは

そこに、空気をもっているはずである。空気の層を着て泳ぐ——人のウェットスーツと同じ原理であり、保温と同じに浮力を得るのに役立っている。

うまくしたものだ。毛は、防寒、防水の役目をはたし、水に入った際には浮力をくわえるウェットスーツにもなっている。

ここでまた、もう一つつけくわえておかねばならない。温度が四十度以上になる砂漠で暮らす人たちは

は、暑いからといって裸で生活してはいない。砂漠の民は、頭から足先までを白い布ですっぽりおっている。

わたしは砂漠へ行き、彼らとラクダで旅を試みた。ものすごい暑さだった。目もくらむというはげしさの表現があるけれども、ものの十分ほど外にいと、暑さに負けて意識を失いそうになった。

外に鉄板を置いておけば、その上で目玉焼きができる。

直射日光は、すべてのものを焼きつくすほどの強さだ。それをふせぐのが衣服である。寒さから人を守ってくれるものは、暑さからも守ってくれるわけだ。

(C) 毛は、虫よけとしてもすぐれている。

野山には、血を吸いにくる蚊がいる。

わたしは一年間、無人島で秋田犬をふくむ五匹の犬と住んでいたことがある。

夏、彼らと外で寝たりした。

犬はまず、寝場所をさがす。あちこちうろつき、

50

45

40

ここぞという場所をクンクンかぎはじめるのである。やがて、まえ足でせつせとそこを引っかきはじめ。枯れ草や枯れたいばらなどが後ろにほうり投げられる。犬は、かなりしつこくそうじした後で、ここにびたりと腹をつけて丸くなった。

(畑正憲『犬 イヌはぼくらの友だちだ』)

* 一 目りょうぜん ひと目見ただけではつきりわかること。

* 2 目からウロコが落ちる 今までよくわからなかったことが、何かのきっかけでとつ然よくわかるようになること。

* 3 ウエットスーツ 水の中にもぐるときに着る服の一つ。

* 4 浮力 液体や気体が、その中にあるほかの物体を浮き上がらせようとする力。

55

問四

□にあてはまることばとして最も適切なものを漢字一字でぬき出しなさい。

11

問五

線③「そこ」の指す内容になるように、

次の にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

長い

が、

いる

ところ

問六

—線④「その」、⑤「それ」の指すものと

して最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア
砂漠

イ
ラク
ダ

ウ
鉄板

工 目玉焼き

才
直射日光

④


11

⑤

11

問七

線⑥「そこ」の指す内容になるように、

次の  にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

として

問八

筆者は、犬の毛はどんな役目をしていると言っていますか。適当でないものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 寒さだけでなく、暑さからも身を守るはたらきをする。

イ 水の中に入ったときに、速く泳げるようにする。

ウ 防水のはたらきや、浮力を得るはたらきをする。

エ 血を吸いにくる蚊などの虫よけになる。



第4講

・説明的文章②



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

わたしのテリーは、眠^{ねむ}くなってくると、寝場所^{ねばしょ}にしているソファに飛びのり、においをかいだ後で、せつせと土ほり動作をするのである。先祖が野外で行っていた行動を、失わずにもっているのである。

(A)、すべての犬が①この行動をとるわけではない。人と住むようになり、文明生活になれ親しむうちに、不必要になり、しまいこまれてしまっている場合もある。

でも、不必要になっている先祖の行動が、いまでも犬にのこっているのは興味深い。よく観察すると、みなさんが飼っている犬の約半数は、多かれ少なかれこの行動をするはずである。

(B)、日暮^{ひぐ}れには、蚊^かがどっと飛んでくる。

10

蚊は、動物の皮ふから排出^{*1}される炭酸ガス^{*2}を道しるべにして飛んでくるのだから、たとえ深い草の中にかくれたって、蚊をふせぐのには役立たない。

蚊は犬にとまった。

わたしは興味津々^{しんしん}、じっと見つめている。

蚊は長い毛にとまり、長い毛ぞいに犬の皮ふへと入っていく。だが、密生^{みつせい}する下毛^{したげ}の層^{そう}まで達すると、しばらくもがいているが、上へと毛をよじのぼってきた。

無人島だから、蚊は雲みたいにかくさんいた。犬は、蚊だらけになったけれど、皮ふにたどりついて血を吸えるものはほとんどいなかった。

動物の毛が蚊よけとして役立っているのを知ったわたしは、なるほどとうなずき、いたずらをしてしまった。

犬を起こし、背を自分のほうにむけて抱^だいてみた。

25

20

15

(C)、蚊に腹を見せてあげたのである。そこには毛があまり生えていないので、蚊たちは、先を争つてもぐりこんできた。

長い毛で顔全体がおおわれているベアデッドリコーなどがあるが、シェパードや秋田犬は、よく見ると顔の部分には下毛があまり生えていない。毛も短い。

蚊やダニは、だから顔をねらう。

そこで犬たちは、眠る際には丸くなり、顔をかくし、虫の攻撃から身を守るわけである。

長い毛と短い毛と二種類ある。これはなぜだろう？

わたしはつめ切りで、長い毛を根もとから刈りとってみたことがある。

すると日ならずして、下毛がもつれはじめた。毛玉があちこちにできて、ブラッシング(ブラシで毛をすく手入れ)ができなくなった。ひどいところでは、もつれた毛が板状になった。

もしもだ、そのような犬が外で遊び、泥などが毛

についたら、犬は泥の板を着ることになってしまう。空気が通わなくなり、皮膚病などの原因になるだろう。

かたく長い毛が、適当な間かくてやわらかい下毛の中にあることは、下毛の状態を正常に保つのに役立つていたわけだ。

やがて雪がふった。

下毛だけの犬が、さっそうと出ていき、雪の中で遊んだ。

すると、どうだ。雪が玉になって毛にくっついた。玉の大きさはいろいろだ。こぶし大のものもあれば、ピンポン球ほどのものもあった。犬は雪玉の飾りを無数につけ、ピエロになったみたいだった。

もちろん、長い毛をもつ犬には、雪玉などくっついていなかった。バランスよく生えている毛は、犬をきれいに保つのに役立っている。

(畑正憲『犬 イヌはぼくらの友だちだ』)

*1排出しないものを外へ出すこと。

*2炭酸ガス(二酸化炭素)のこと。生物の呼吸によって、

体の外へ出される。

*3日ならずして何日もたたないうちに。

問一 () A～Cにあてはまることばとして最

も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア さて イ しかし

ウ しかも エ つまり

A

B

C

問二 — 線①「すべての犬がこの行動をとるわけ

ではない」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「この行動」が指している五字のことばを文中から書きぬきなさい。

(2) すべての犬が「この行動」をとらないのはどうしてか、ということについて説明されている一文の初めの五字を書きぬきなさい。

問三

——線②「蚊は犬にとまった」について、次の問いに答えなさい。

(1) 蚊は、何によって犬をさがしあててとまったのですか。文中から十三字で書きぬきなさい。

(2) 犬にとまった蚊についての説明として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 苦労はしたが、ほとんどの蚊は血を吸うことができた。

イ 蚊は犬が苦手なので、すぐに別の所へ飛んでいった。

ウ 下毛の層に達することができた半分くらいが血を吸った。

エ 下毛のために皮ふにたどりつけない蚊がほとんどだった。

--

問四

——線③「顔をねらう」のは、その犬の顔の部分がどうなっているからですか。文中のことばを使って、二十字以内で書きなさい。

問五

——線④「そのような犬」とはどんな犬ですか。「く犬」につながる十二字のことばを文中から書きぬきなさい。

犬

問六

犬の長い毛を根もとから刈りとってみてわかったこととして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 長い毛は下毛がもつれるのをふせぐ。

イ 長い毛は蚊が皮ふにたどりつくのをふせぐ。

ウ 長い毛は雪の中の寒さをふせぐ。
エ 短い毛だけでも雪がつくのをふせぐ。



二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

犬にとって毛は、欠くべからざるものだ。それが生えていない品種がいるので、わたしは手もとに置いてみたくなった。

やがて、思いが天に届いたのか、オスとメス一匹ずつがやってきた。名まえはすぐに決まった。アダムとイブ。

両者ともに歯ならびが悪かった。すぐさま資料を調べてみると、遺伝的に歯に欠損があると記されていた。とにかく変わった犬だった。イブがひざの上に乗ってくると、まるで作りたての弁当箱がそこにあるみたいにあたたかだった。

①「インカの伝説はほんとうかもしれないな。」わたしはそう思った。

インカ帝国は、海拔三〇〇〇メートル以上の高い山の上で栄えた。赤道に近いので昼間は暑いとしても、夜になると冷えこみがきつくなる。日が落ちる

と、セーターが必要になり、夜中には冬用のコートがあるほどだった。

(A) インカの人たちは、ヘアレスドッグを抱いて寝たのだそうだ。湯たんぽ代わりにしたわけだ。湯たんぽ犬だ。

②冬、雪がふると、アダムとイブは目に見えてやせてきた。

わたしは彼らを調べ、栄養のせいだと結論した。彼らには毛がないので、体表からどんどん熱がうばわれてしまうのである。熱、すなわちエネルギーであり、寒さに対抗するために食べたものがすべてまわされるので、はねまわったりしたぶん、ためたものが使われ、つまりやせるわけだ。

わたしは、インカ犬のために、高い栄養分をふくんだ特製フードをあたえることを指示した。それによって、アダムとイブはみるみるふとりはじめた。このことだけでも、犬にとって が必需品であるのがわかる。

じゃあクジラはどうだ。なぜアザラシには深々と

毛が生えていないのだという疑問^{ぎもん}が起こる。それが科学の母だ。疑問をつぎからつぎにもち、解決するまでもちつづけていると自分の知識、自分の学問が育っていくのである。

クジラやイルカなど、海の中にすんでいる、ほ乳^{にゅう}動物には、皮の下に、特別な脂肪^{しぼう}の層^{そう}がある。それが熱をしゃ断^{せつだん}していて、体の外ではなく、内側に、文字^{もじ}どおりインナーを着^きこんでいるのだ。

よくしたものだよね。いつも水の中にすんでいるのだから、どんなに加工しても毛は水にぬれてしま^④い、防寒材としては使えないのだから。それで彼らは、特別な脂肪の層を開発したのである。

(B)、ヘアレスドッグは、体毛がなく、歯^はにも欠陥^{けつかん}がある。生きていくためには、不利な条件を抱^{かか}えこんでしまっている。

もしもだれかが、ヘアレスドッグを無人島にもちこんだでしょう。(C)人が引きあげてしまうと、彼らはぜったいに、野犬として生きのこれないはずだ。

50

45

40

人が島におしかけ、犬を連れていき、やがて住めなくなり、犬を置きざりにした例はいくつか知られている。

あの有名なガラパゴス諸島^{しよとう}にもそのような島があり、わたしはそこを訪^{おとず}れ、犬の足あとを追跡^{ついせき}したものだ。犬たちはその島で増え、三匹から五匹の群れを作って行動している。彼らは、同じく野生化した牛を襲^{おそ}って食べている。

ヘアレスドッグだと、こ^⑤うはいかない。人が保護^{ほご}していないと死に絶え、消えてしまう。

(畑正憲^{はたまさのり}『犬 イヌはぼくらの友だちだ』)

*1 欠損^{けつそん} 欠けて不完全になること。

*2 フード 食べ物。えさ。

*3 脂肪^{しぼう} 動物では、皮下^{きんにく}・筋肉^{かんろう}・肝臓^{かんぞう}などに貯蔵^{ちよざう}され、エネルギー源^{げん}となる。

*4 インナー 下着。

55

適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア
さ
て

イ
だ
か
ら

ウ
そして
エ
ある
いは

A

B

C

問二——線①「インカの伝説」とは、どんなもの

ですか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

へアレスリドッグを抱いて寝て、いわば

にしていた

という伝説

問三 線② 「冬、雪がふると、アダムとイブは

目に見えてやせてきた」とありますが、その理由として最も適当なものを次のうちから選び、

記号で答えなさい。

ア 外ではねまわったりすることが多くなるので、たくさんエネルギーを使うから。

イ 体表からどんどん熱がうばわれ、ためていたエネルギーが使われてしまうから。

冬になると、寒さのために、食べたものを

エネルギーとしてためておけないから。

工 寒いとはあまり食べものが食べられない
 くなつて、ためていたエネルギーが減るから。

問四 線③「それ」が指しているものを、文中

から十五字で書きぬきなさい。

問五

□にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 歯 イ 毛
ウ 皮ふ エ 脂肪

問六

——線④「彼ら」が指しているのは、どのようなものか。文中から書きぬきなさい。

問七

——線⑤「こうはいかない」とありますが、「こう」は、どうすることを指していますか。それが述べられている部分を文中からひと続きの二文でさがし、その初めの九字を書きぬきなさい。

問八

この文章の内容に合っているものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア アダムとイブは、インカ犬にしては例外的に歯ならびが悪い。

イ 体毛のない犬には、特別な皮下脂肪の層がある。

ウ インカ犬は、群れを作らないと生きられない。

エ 体毛のない犬は、野犬として生きていけない。

第五講

・ 文学的文章 ③



◆ 心情をとらえる

心情とは気持ちのことです。物語文を読むときは、登場人物の心情をとらえることが大切です。

その場合に一番大切なことは、

・ 自分だったらこんなときどんな気持ちになるだろう

・ こんなことを言われたらどんな気持ちになるだろう

・ 自分がこんなことを言うとしたらそれはどんな気持ちのときだろう

と、その人物になったつもりで気持ちを考えることです。そして、次のような点にも注意して、心情をとらえましょう。

(1) 直接的な表現をとらえる

「うれしい」「悲しい」「腹^{はら}を立てる」など、気持ちを直接表した表現をとらえましょう。

(2) 登場人物の発言に注目する

気持ちを直接言っていないくても、発言からその人の気持ちがわかることがあります。

(3) 登場人物の行動や様子に注目する

発言だけでなく、行動や様子を表す表現からも、その人の気持ちをうかがうことができます。

(4) 情景から人物の気持ちを考える

人物ではなく、場面の様子を表したことはもちろん、人物の気持ちを読み取ることができます。

一 題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

「^①なんであんなことを言っちゃったんだろう……。

二月のカレンダーをにらむように見つめながら、
ぼくは何度もため息をついた。

今日は二月十二日——あと一カ月ちよつとで、マコトは転校してしまう。マコトと一緒に^{いっしょ}過ごせる時間は、カウントダウンのように一日ずつ減っていく。

でも、^②ぼくとマコトは口をきいていない。一週間

前——^{*2}ガムガム団をやっつけたあと、マコトに「転校するな!」と言った。その日以来、ずっと。

あんなこと言わなければよかった。

マコトが一瞬^{いっしん}浮かべた泣きだしそうな顔が、いまでも頭の中から離^{はな}れない。

あんなこと言わなければよかった。

教室でマコトの顔をちらっと見かけただけで、^{むね}胸がドキドキして、^{ほお}頬が熱くなつて、うつむいたり、そっぽを向いたり、廊下^{ろうか}に駆け出したりしてしまう。

15

10

あんなこと言わなければよかった。」

庭に出て、ワンの犬小屋を見つめた。ワンはもういなくなつたのに、からっぽの犬小屋の前に立つと、どこからかワンの鳴き声が聞こえてくるような気がする。

犬小屋の前にしゃがみこんだ。また、ため息をついた。

「どうしたの? ツヨシ」

ママに声をかけられた。

「^③……なんでもない」

ぼくは薄暗い犬小屋の中をじっと見つめたままだった。振り向いてママの顔を見たら——なんだか、泣きだしてしまいうさだったから。

「最近、元気ないけど」

「……そんなことないって」

「ワンのこと思ひだしてるの?」

「うん……まあ……」

ママはクスッと笑って、「犬小屋もそろそろ処分^{しよぶん}しないかね」と言った。

35

30

25

20

「捨てちゃうの？」

④ びっくりして、思わず振り向いた。

ママは笑顔のまま、「だって、いつまでも庭にあってもしようがないでしょ？」と言った。「ワンだって、天国でうちがいないと困ってるかもしれないし」

「それはそうだけど……」

急に悲しくなってしまった。ママがそんなことを言い出すのって意外だった。ママはよくが学校に行っている間もずっとワンと一緒にいて、家族の中でいちばんワンのことをかわいがっていて……なのに、ママは、もう、ワンのこと忘れてしまったんだろうか……。

その日の晩ごはんのときも、ママは「ね、そろそろ犬小屋を片づけようよ」とパパに言った。

パパはちよつと驚いた顔になって「いいのか？」と聞き返した。「べつにじやまになるわけでもないんだから、そんなに早く片づけなくてもいいんじゃないのか？」——そうそうそう、そうなんだよ、ぼく

50

45

40

もパパに大賛成。

でも、ママは「あなたは洗濯物を干したりしないからわからないのよ。あそこにあると、けっこうじやまなのよ」と言う。「今度から、もうちよつと家事も手伝ってちょうだい」

「じゃあ、場所をちよつと動かそうか」

パパは食い下がったけど、ママは「どこにあってもじやまなの」とすまし顔で首を横に振る。パパもそれ以上はなにも言えずに、ぼくと目を見合わせて、「ま、しようがないかな」と肩をすくめるだけだった。

(重松清 『くちぶえ番長』)

*ーマコトⅡ「ぼく(ツヨシ)」と同じクラスの女の子。

弱い者いじめがきらいな、男まさりな子。

小学四年生。

*2ガムガム団Ⅱ下級生をいじめる、六年生三人組の男の子。マコトをいじめようとして、逆にマコトにやつつけられてしまったことがある。

60

55

問一

——線①「あんなこと」とは、だれに何と言ったことを指していますか。次の□にあてはまることを文中から書きぬきなさい。(句読点・記号も一字にふくみます。)

と言ったこと

問二

——線②「ぼくとマコトは口をきいていない」とありますが、「ぼく」がマコトに口をきけない様子がよくわかる一文を文中からさがし、その初めの六字を書きぬきなさい。

問三

「」で囲まれた場面での「ぼく」の気持ちとして、最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア あきらめ イ 不安
ウ 後悔こうかい エ 怒りいか

--

問四

——線③「……なんでもない」とありますが、このとき、「ぼく」はどんな気持ちでしたか。次の□にあてはまることを文中から書きぬきなさい。

ママの顔を見たら

なので、そっとして

おいてほしい。

問五

——線④「びっくりして」とありますが、「ぼく」がびっくりしたのは、なぜですか。次の□にあてはまることを文中から書きぬきなさい。

「犬小屋もそろそろ処分しないとね」というママのことばが、「ぼく」にとっては

から。

問六

——線⑤「すまし顔で首を横に振る」とありますが、この動作からは、ママのどんな様子がわかりますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア ワンの死の悲しみを、どうにかこらえている様子

イ 犬小屋を処分することに関して、決意がきたい様子

ウ 犬小屋を処分したがないパパに腹を立てている様子

エ 犬小屋の話は、もうこれ以上したくないと不満げな様子

--

第六講

・ 文学的文章 ④



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

次の日も、マコトに話しかけることはできなかった。マコトのほうも、わざわざぼくに声をかけたり、こっちを見たりしなかった。友だちといつもどおりにおしゃべりして、いつもどおりに笑って、いたずらをするジャンボやタツチにいつもどおり輪ゴムをぶつけて……。

みんな知らないんだ、なにも。マコトはまだ、転校のことをぼく以外の誰にも話していない。

① 最初は、ほんのちよつとだけ、それがうれしかった。ヒミツを知っているのはぼくだけだ、なんて。

でも、いまは違う。マコトがクラスでぼくにだけ転校の話を打ち明けたことは、ほかの友だちより早く「バイバイ」を言いたかったってわけで、そ

10

れて、誰よりも先にぼくとお別れしたいってことでもあって……つまり、マコトはぼくのことなんて大嫌いで……だからさっさと「バイバイ」しちゃって、ほかの友だちとは一日でも長く友だちでいたいから、まだなにも打ち明けてないのかもしれない。胸がドキドキする。緊張するドキドキよりも、もっと痛い。ズキズキ、だ。

20

② べつにいいけど。そんなの、べつにいいけど。ぼくだってマコトのこと、なんとも思っていないし。あいつ乱暴だし、そっけないし。そうだよ、転校したの頃はもっと無愛想で、「友だちなんていらぬ」みたいな態度だったのに、なんだよあいつ、みんなと笑っちゃって、楽しそうで、チョンマゲをさわらせてたりして……。

25

昼休みが終わって教室に入るとき、外に出ようとしたマコトとドアの前でぶつかりそうになった。

もちろん——ぼくは、無視^{むし}。そっぽを向いてマコ

トの横をすり抜けようとしたら、「ちよつと」^③と呼

び止められた。しかたなく立ち止まって、しかたなく振り向いて、しかたなく「なんだよ」と言った。

「ツヨシ、このまえからなに怒^{おこ}ってるの？」

頬^ほがカツと熱^{あつ}くなった。あわてて目をそらして、

「べつにいい」と言った。

「怒^{おこ}ってるじゃない、やっぱり」

「怒^{おこ}ってるないよ」

「怒^{おこ}ってるっ」

「怒^{おこ}ってないっ……そんなこと言うんだったら、マ

コトだって……」

「わたしがどうかした？」

「……どうもしてないけど」

そうなんだ。マコトはずーっと、いつものマコト

で、クラスの間^⑤のみんなもずーっと、いつものみんな

で、ぼくだけ、ぼく一人だけ、面白^{おもしろ}くなくて、つま

らなくて、イライラして、機嫌^{きげん}が悪^{わる}くて……悲^{かな}しく

で、寂^{さび}しくて……。

目をそらしたままにも言えなくなった。ぼくに、

マコトは、ヒューウツとくちぶえを鳴らした。「ま、いいけどね」と軽く笑って、歩きだして、それっきりだった。

(重松清 『くちぶえ番長』)

*ー ジャンボやタッチⅡ「ぼく(ツヨシ)」やマコトと同じクラスの男の子。

*2 転校したての頃Ⅱ マコトは、四年生の四月に「ぼく」

が通う小学校に転校してきた。

*3 チョンマゲⅡ マコトは、かみの毛を頭^{かみ}のてっぺんで

チョンマゲのように結んでいる。

問一

——線①「ヒミツを知っているのはぼくだけ

だ」とありますが、転校することをマコトから聞いたときの「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」は口がかたいから、クラスのみん

なに信らいされているのだと、いばりたい気持ち

イ マコトは「ぼく」のことをいちばん大切な

友だちだと思っているのだと、得意に思う気持ち

ウ マコトが転校することをクラスの友だちに

早く教えてあげたいと、そろそろする気持ち

エ 乱暴なマコトが転校すれば、このクラスは

静かになるはずだと、ほっとした気持ち



問二

——線②「べつにいいけど。そんなの、べつ

にいいけど。ぼくだってマコトのこと、なんとも思っていないし」からは、どんなことがわかりますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」がマコトのことを本当は嫌いだということ

イ 「ぼく」がマコトの勝手な行動を許せないでいること

ウ 「ぼく」がマコトに対して興味がなくなつたこと

エ 「ぼく」がマコトに対して意地を張っていること



問三

線③ 「『ちょっと』と呼び止められた」

とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア マコトに話しかけられたことが、内心うれしかった。

イ マコトとは話をしないと決めていたので、どうしてもよかった。

ウ 無視しようとしたのに呼び止められたので、ふゆかいだった。

エ 「ちょっと」という呼び止め方に腹が立った。



問四

線④ 「頬がカッと熱くなった」とありますが、このとき、「ぼく」の「頬がカッと熱くなった」のはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア マコトが「ぼく」のことを気にしていたことがわかって、照れくさかったから。

イ ぶつかりそうになったのにもかかわらず、あやまらなかつたマコトの失礼な態度に腹が立ったから。

ウ 怒っていることをマコトに気づかれていたことが、はずかしかったから。

エ 「ぼく」が怒っている理由をマコトがわかっていないことを知って、あきれたから。



問五

——線⑤「ぼくだけ、ぼく一人だけ、面白くなくて……悲しくて、寂しくて」とありますが、「ぼく」がこんな気持ちになったのはなぜですか。次の□にあてはまることばを文中から十五字で書きぬきなさい。

マコトがクラスで「ぼく」にだけ転校の話を打ち明けてくれたことが、逆に「ぼく」を不安にさせ、□なのではないかと思うようになっていたから。

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

① その日、ママは日が暮れても帰ってこなかった。

ぼくは宿題を終えると庭に出た。テレビもマンガも、つまらない。なにをやってもつまらない。ワンの小屋の前にしゃがみこんで、ヒュウツ、ヒュウツ、とくちぶえを吹いた。そうでなくてもくちぶえはへタなのに、特に調子が悪い。すぐにかすれて、しばらくでしまう。

だめだよ、ツヨシ、もつと勢いよく吹かないと――。

マコトの声がよみがえる。

ワンワンワンワンツ、とワンも思い出の中で励ますように吠えた。

パパが会社から帰ってきた。家の中に戻ろうかと思っただけ、なんだかそれも面倒くさくて、しゃがんだままでしたら、パパはガレージから直接庭に回って、「やっぱり、ここにいたのか」と笑った。

「ママ、まだ帰ってこないんだよね……なにやって

んだらう」

「いろいろ忙しいんだよ、今日は」

パパはやっぱり、ママの外出の理由を知ってるんだ。

それを訊く前に、パパはぼくと並んでワンの小屋の前にしゃがみこんで、「ワンが死んでいちばん悲しかったのはママなんだよ」と言った。

「パパやツヨシはときどき散歩に連れて行くだけだったけど、ママはずーっと、ワンが子犬だった頃からおじいちゃんになるまで、いちばんそばにいたんだもん」

「でも……犬小屋、もういらないって」

「うん、言ってたなあ」

「ほんとうにワンのことが好きだったら、そんなこと言わないんじゃないの？ 犬小屋がなくなったら、ワンのことも思いたせなくなっちゃうじゃない」

パパはうなずきながら笑って、「でもな」と言った。

「犬小屋がどんどん汚れて、ボロボロになっていくのを見るのって、つらいだろ」

「それは、まあ……そうだけど……」

「たとえ犬小屋がなくなっても、ワンのことはいつでも思いだせるんだ。ママも、パパも、ツヨシも」

だってそうだろう、と。パパは人差し指で犬小屋を指して、それからその指を自分の胸に^{むね}びたつと当てた。

「思い出っというのは、ここにあるんだ。犬小屋がなくなっても、この家からいつか引越^こしちゃっても、ワンはずっと、みんなのここにいるんだよ」

ツン、ツン、ツン、と人差し指で自分の胸をつついて、^④「ママはそれをツヨシに教えたかったんじゃないのかな」と笑う。

そして、もつとにっこり笑って、もう一言――。

「ワンのことだけじゃなくて、さ」

思わず「え？」と聞き返したばかりに、パパはつづけて言った。

「^{*2}。パパはヒロカズにはもう会えないけど、あいつは、ずーっと、ここにいるんだ。パパの胸の中で、わんぱくな子どもの頃のまま、笑ってる」

50

45

40

「うん……」

「マコトくんだって同じだよ。ここにいるんだ、これからも、ずーっと」

パパに胸を軽くつかれて、^⑤たまらなく恥^はずかしくなつて、ダッシュで家の中に戻ったとき、ママが帰ってきた。

(重松清『くちぶえ番長』)

*1 ガレージ車をしまっておくところ。車庫。

*2 ヒロカズはマコトの父親。「ぼく(ツヨシ)」の父親の小学校時代の親友。すでに病気で亡^なくなっている。

60

55

問一

——線①「その日、ママは日が暮れても帰ってこなかった」とありますが、家で一人で過ごしていた「ぼく」の気持ちを表していることを文中から五字で書きぬきなさい。

問二

「ぼく」がマコトのことばやワンの行動を空想しているひと続きの三文を文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

問三

——線②「パパはガレージから直接庭に回って」とありますが、パパがこうしたのは、なぜだと考えられますか。次の□にあてはまることばを文中から七字で書きぬきなさい。

最近元気がなくさびしそうなので、ツヨシは

□にいるのではないかと思ったから。

問四

——線③「ワンが死んでいちばん悲しかったのはママなんだよ」とありますが、パパがこのような話を「ぼく」にしたのは、どのような気持ちからですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 元気のない「ぼく」にいらいらする気持ち
 イ 元気のない「ぼく」をしっかりと気持ち
 ウ 元気のない「ぼく」を励ましたい気持ち
 エ 元気のない「ぼく」をからかう気持ち

--

問五

——線④「それ」が指しているのはどんなことですか。次の□にあてはまることばを、aは三字、bは十五字で文中から書きぬきなさい。

思い出は、ずっと□aにあるので、犬小屋がなくなったとしても、□bのだということ

a	b

問六

——線⑤「たまらなく恥ずかしくなって、ダツシユで家の中に戻った」とありますが、このとき、「ぼく」が恥ずかしくなった理由として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア ワンやマコトのことで、ずっと落ちこんでいる自分が情けなかったから。

イ 「ぼく」の胸の中に、マコトはずっといるんだと言われて、うれしかったから。

ウ 「ぼく」がマコトを好きなことを、パパに気づかれているとわかったから。

エ パパのことばや動作が、しばいがかつていて、照れくさかったから。

--

第七講

説明的文章③



◆段落

段落とは、一つの意味を作っている、いくつかの文のひとまとまりのことです。前後の段落との関係や、それぞれの段落が文章全体の中でどんな役割を持っているかを考えましょう。段落には次の二つがあります。

- (1) 形式段落……改行が行われるまでのひとまとまりの文章を形式段落といいます。形式段落ごとに、その中心となる文を見つけ、要点をまとめましょう。
- (2) 意味段落……内容のまとまりからみた文章のひと区切りを意味段落といいます。意味段落のほとんどは、いくつかの形式段落が集まってできています。

◆文章構成のとりえ方

説明文の場合、文章は序論(問題提起)、本論(説明)、結論(まとめ)からなっている場合が多く、その展開の順序によって、文章構成は大きく次の三つの型に分類できます。意味段落が、序論、本論、結論のどれにあたるか、どのような順序で展開されているかを考えて、文章構成をとらえましょう。

- (1) 尾括型……序論→本論→結論という展開で、最も多い型です。
- (2) 頭括型……結論→本論という展開で、最初に結論が来ます。
- (3) 双括型……結論→本論→結論という展開で、結論が最初と最後にある場合をいいます。

一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

① みなさんは、海の水が増える、ということがどんなことだか考えたことがあるでしょうか。たとえば海の水が増えて海面が一メートル上がったとしましょう。すると、日本でいえば、日本全体が一メートルしずむのと同じことです。世界中の陸地全体が一メートル低くなるのです。

② 南太平洋にツバルという、総面積二六平方キロ、人口一万人足らずの小さな国があります。テレビで見た人もあるでしょう。この国は、いくつかの小さくて平べったい島からできていて、多くはサンゴ礁の島々です。海はきれいで、島にはヤシの木が茂り、熱帯の楽園のようなところです。そこで人々は、漁業と観光で生活しています。

③ でも、島のいちばん高いところでも海面から約四メートル、つまり二階建ての建物より低いのです。このように土地が低いために、これから海の

水が増えてくると、これらの島には住めなくなってしまう、つまり国がなくなってしまうのでは、と恐れられているのです。

④ 問題はツバルだけにはかぎりません。太平洋やインド洋には似たようなサンゴ礁の島がたくさんあります。また、バングラデシュでは、海面が一メートル上がっただけで、国の水田の半分がなくなってしまうといわれています。

⑤ 日本でも、海岸沿いに、東京や大阪などの大都市や、工場地帯がひろがっています。一メートル海面が上がると、満潮時に海面より低いところに住むことになってしまう人は四〇〇万人をこえるのです。

⑥ また、世界でも、米国のニューヨークなど、海岸沿いに大都市がある国が多いのです。中国で最大の都市である上海も、海面が一メートル上がっただけで、市街地の三分の一が水につかってしまいます。

⑦ 海の水が増える原因は地球が温暖化すること

す。温暖化すると、南極や北極の陸地の上にある雪や氷が溶けて、海の水が増えるのです。

- 8 南極のまわりや北極海に浮いている冰山も溶けます。しかし、コップに水と氷を入れて溶かしてみればわかるように、水に浮いている氷が溶けても、その水の体積は水中に沈んでいた氷の体積と同じなので、水面の高さは変わりません。つまり冰山が溶けても、海水面が高くなるわけではありません。

- 9 では、なぜ、どうやって、二酸化炭素のせいで地球が温暖化するのでしょう。

- 10 花や野菜を作る温室は、屋根がガラスや透明なビニールになっていて、太陽のエネルギーを温室の中に取りこむのですが、一方、ガラスやビニールが温室から外へ逃げようとする温まった空気をとじこめてしまうので、温室の中の温度が上がるしくみです。

- 11 地球の場合には、二酸化炭素というガスと水蒸気が温室のガラスやビニールの役目をして、太陽

から来たエネルギーによって地球にできた熱を閉じこめてしまえます。こうして、地球の温度が上がるのです。

- 12 やかんやなべがだんだん冷えていくのと同じように、地球からも、どんどん熱が逃げていきます。□、このときに、二酸化炭素と水蒸気が地表から逃げていく熱（赤外線）を吸収したり、吸収した熱をふたたび放出して地表にもどすので

- 13 こうしてみると、温室のビニールやガラスは、温まった空気と冷たい空気がまざるのをふせいでいるのですから、この地球に起こっていることは、厳密に言えばちがう現象です。しかし、熱の逃げるのをふせぐという意味で、地球温暖化はよく、温室にたとえられるのです。

- 14 いま、地球全体の二酸化炭素が増えてきています。工場や、発電所や、自動車からはき出されている二酸化炭素は年々、増えてつづけています。

（島村英紀『地球環境のしくみ』）

問一

——線①「海の水が増える」とありますが、海の水が増えるのはなぜですか。次の□にあてはまることを文中から書きぬきなさい。

こと

によって、

が

溶けて水になり、海に流れ出すから。

問二

——線②「南太平洋にツバルという……小さな国があります」とありますが、ツバル以外で、海の水が増えることによって深刻な影響を受ける国や地域について、具体的に説明している段落は何段落から何段落までですか。段落番号で答えなさい。

--

段落

--

段落

問三

□にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア だから イ そのうえ
ウ でも エ なぜなら

--

問四

——線③「地球温暖化はよく、温室にたとえられる」とありますが、地球温暖化を温室にたとえるとき、二酸化炭素は次のどれにあたりますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 温室の中の花や野菜
イ 温室のガラスやビニール
ウ 太陽のエネルギー
エ 太陽のエネルギーによって地球にできた熱

--

問五

この文章を、内容のうえから次のように二つの意味段落に分けるとすると、後半はどこからになりますか。後半の初めの段落を段落番号で答えなさい。

前半…海の水が増えることによる影響と、海の

水が増える原因

後半…二酸化炭素による地球の温暖化



段落

問六

この文章の内容と合っているものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海の水が増えて海面が一メートル上がったとしても、世界中の陸地のすべてが一メートル低くなるわけではない。

イ ニューヨークや上海は海岸沿いの都市だが、海の水が増えても街にあまり影響はない。

ウ 花や野菜を作る温室のしくみは、地球が温暖化するしくみとまったく同じである。

エ 地球の温暖化の原因である二酸化炭素の増加は、人間の活動と関係がある。



第八講

説明的文章④



一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

調査の結果、地球の平均気温はこの一〇〇年間で約〇・六℃上がったことがわかった。このあとの一〇〇年間では、高ければ六℃も上がると予測されている。

- ① じつは、六℃もあがると、たいへんなことになるのです。毎日の気温ならば、上がった日があれば下がる日もあります。また暑い夏、とか寒い冬、があっても、何年かのうちには平均的な気温になります。

5

- ② しかし、地球温暖化による気温の上昇は、平均的な気温そのものが上がっていくので、影響がずっと大きいのです。つまり、気温が上がったままになって、動物や植物が生きていく環境を変え

てしまうからです。

- ③ もちろん、暑かったり寒かったり、というばらつきは、これからもつづきます。しかし、地球全体の平均気温が数度上がるとなると、いろいろなところに大きな影響が出てきます。

- ④ 前にお話したように、二酸化炭素などの温室効果ガスは地表から逃げていく熱を上空で吸収したり、放出して、地表にもどします。

- ⑤ そうすると、まず、地表の温度が上がり、地表の近くの空気が暖められて軽くなり、上昇気流が強くなります。海水の温度も上がり、蒸発する水の量も増えます。

- ⑥ すると、低気圧が大型になったり、強い台風がたくさん生まれるのです。低気圧も台風も、空気の上昇気流が作ったものです。そして生まれた強い台風は、海流とともに、赤道付近の熱を、赤道

15

10

から温帯へ運びます。

7 これまでだったら、たとえば^③日本付近に近づいた台風は、やがて弱まっていった温帯低気圧になり、さらに弱くなって消えていくのが普通^{ふつう}でした。

8 これは、台風のエネルギー源^{げん}は暖かい海水から出る水蒸気をふくむ上昇気流ですから、海水の温度が低くなるにつれて台風が弱まっていくからなのです。また、台風が上陸したあと、急速に弱まるのは、水蒸気が上がらなくなることと、陸地と^{*4}の摩擦^{まさつ}のためです。

9 しかし、温帯での海水の温度が高いと、台風が強いまま、陸地を襲^{おそ}うことになるのです。

10 エルニーニョ現象^{げんしょう}というのを聞いたことがありますか。これは太平洋の中央部を流れている海流の異変^{いへん}で、この現象が起きると、日本の近くの台風が増えるだけではなく、世界の広い範囲^{はんい}で気候が変わったり、魚の数や種類が変わったりするのです。いままでもときどき起きていましたが、地球が温暖化すれば、もっと増えるといわれています

35

す。

11 また、海水の温度が上がると、海からの水の蒸発量が増えます。これによって、いままででは、雨がさらに増えることになります。多雨^{たう}地域^{いき}といわれるところほど大雨が降ることになるし、豪雪^{こうせつ}地域^{ちつ}といわれる雪の多いところほど降雪量は増えるでしょう。そして、海水が増えて土地が低くなるでしょうから、洪水^{こうずい}などの水害がいままで以上に増えることになるのです。

12 一方、砂漠^{さばく}のように、温度がもともと高いところでは、もっと温度が高くなることによって、水分の蒸発が進んで乾^{かわ}き、さらに砂漠がひろがっていくことになるのです。つまり、世界で、雨の多いところと少ないところの不公平がいまより増えるのです。

13 雨の量が増えたところでも、減ったところでも、農業に影響します。水不足だとももちろん農業の生産量は減りますし、洪水によっても減ります。

14 そして、温帯ばかりではなく、もっと緯度^{いど}が高

60

55

50

45

いところへも、同じように熱帯の熱が運ばれやすくなります。このことによって、温度が上がって陸にある氷河が溶け、海の水が増えていくのです。

15 これが地球が温暖化していく影響なのです。

(島村英紀『地球環境のしくみ』)

*1 上昇気流⇨上空に上っていく空気の流れ。雨や雪の

原因となる。

*2 低気圧⇨周りに比べて、大気の圧力が低いところ。

中心付近では雨が降ることが多い。

*3 温帯低気圧⇨温帯地方でできた低気圧。台風が温帯

地方に入り、力が弱くなったときなど

にいう。

*4 摩擦⇨二つのものがすれ合って、その動きが弱まる

こと。

*5 豪雪地帯⇨非常にたくさんの雪が降る地域。

65

問一 この文章を、序論（問題提起）、本論（説明）、

結論（まとめ）の三つの意味段落に分けたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
イ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
ウ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
エ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

問二 線①「二酸化炭素などの温室効果ガスは

地表から逃げていく熱を上空で吸収したり、放出して、地表にもどします」とありますが、この結果起きている現象は何とよばれていますか。文中から五字のことばを書きぬきなさい。

--

問三

線②「上昇気流が強くなります」とありますが、上昇気流によって発生するものを二つ、文中からそれぞれ三字以内で書きぬきなさい。

問四

線③「日本付近に近づいた台風は……さらに弱くなって消えていく」とありますが、地球の平均気温が数度上がると、台風はどのような状態で日本に上陸することになりますか。そのことが説明されている一文を文中からさがし、その初めの五字を書きぬきなさい。

問五

に当てはまることを答えなさい。

問六

この文章の内容と合っているものを次のうちから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 地球の平均気温が数度上がると、毎日の気温のばらつきはなくなる。

イ 地球の平均気温が数度上がると、強い台風が今よりもたくさん発生するようになる。

ウ 地球の平均気温が数度上がると、動物や植物が生きていく環境が変わり、漁業や農業に影響する。

エ 地球の平均気温が数度上がると、海水の温度も上がって蒸発する水の量が増えるため、世界中で雨がさらに増える。

二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

① 世界の各地の気温が上がると、まず、それぞれ
の場所で育つことができる植物がちがってきます。

② たとえば日本でいえば、寒い北海道よりも、暖
かい九州の方が、一般に、植物の発育がよいので、
温暖化するのは、悪いことではないと思うかもしれ
ません。しかし、そうではないのです。現在は、
その土地の気温に適した、たくさんの動物や植物
が、おたがい助け合いながら、バランスよく育っ
ているのです。これが生態系せいたいけいというものです。

③ それが、急に温度が変わると、生態系がくずれ
てしまい、大半の植物や動物は、減ってしまいま
す。ごく一部の、もっと高い温度をほしがってい
た植物や動物だけが、増えることになります。

④ たとえば気温が二℃上がることは、その土地が
一五〇キロから五五〇キロほど、赤道のほうにず
れたのと同じことになるといわれています。また、

山地ならば、一五〇メートルから五五〇メー
トルもふもとのほうに下がったことになります。植物
は育つのに適した気温のほうに、だんだん移住し
ていくのですが、成長が遅い植物では、この気温
の移動に追いつかないことがあります。つまり、
その植物は枯れて、その場所では絶えてしまうの
です。

⑤ 生態系が変わると、特定の植物しか食べない動
物や昆虫は、生きのびられないかもしれません。
たとえば、蝶の多くは幼虫が食べる食草というも
のがきまつていて、それ以外は食べません。本州
の里山に住むギフチョウという美しい蝶は、近ご
ろは数が減って心配されていますが、この幼虫は
カンアオイという草の葉しか食べません。

⑥ 漁業はずいぶん変わります。プランクトンの種
類や量が変わり、寒流の魚はずいぶん減ること
でしょう。農業も、作物の種類や収穫量がずいぶ
ん変わります。これまでとれていた米がとれなく
なってしまう地域が出てくるでしょう。

7 また、気候が変わることによって病害虫が発生しやすくなります。これも、農作物の生産を減らしてしまいます。

8 つまり、温暖化によって、ごく一部の場所では、農業生産が増えるでしょうが、ほかの大部分では、農業生産が減ります。つまり、地球全体の食糧生産が減ってしまうと考えられているのです。

9 動物たちの餌にも影響が出るでしょう。餌が不足して、ニワトリやウシ・ブタを飼いにくくなるかもしれません。また、乳牛はもともと夏は食欲がなくなり、牛乳を出す量が減るので、地球温暖化が進むと、肉や乳製品の値段も上がることでしょう。

10 そのほか、気温が上がることによって、川や海から蒸発する水分が増えます。そして、川や湖の水の量が減ったり、水の温度が上がることもあって、水質が悪くなったり、微生物が増えて、湖や池の富栄養化が進みます。いまでも、あちこちの湖や池に、アオコのような緑色の藻が増えて、魚

などの生物が減ることがあるのを聞いたことがあるでしょう。^②あれが富栄養化なのです。

11 また富栄養化は、窒素化合物やリンなどの農業で使う肥料分や家庭で洗濯に使う洗剤の成分が水中に増えることも大きな原因です。□人間の活動の影響による富栄養化も大きいのです。

12 それだけではありません。^③地球が温暖化すると伝染病も増えるのではないかと心配されています。伝染病はもともと熱帯地方に多い病気です。温帯地方にひろがる伝染病もありますが、熱帯地方の伝染病のほうがずっと多いのです。

13 温暖化とは、熱帯地方がひろがることです。熱帯の伝染病が、それまでなかった地域にひろがる心配があります。なかでも、蚊が伝染をひろめる感染症のマラリアはおそろしい病気で、いま、世界各地で増えてきています。

（島村英紀『地球環境のしくみ』）
*微生物Ⅱけんび鏡でなければ見えないような小さな生物。

問一

この文章を次の□内の四つの意味段落に分けるとしたら、どうなりますか。最も適当なものをあとから選び、記号で答えなさい。

第一段落 温暖化すると、生態系が変わる。

第二段落 温暖化すると、漁業や農業、らく

農に影響が出る。

第三段落 温暖化すると、湖や池の富栄養化

が進む。

第四段落 温暖化すると、伝染病や感染症が増える。

エ	ウ	イ	ア
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	/	/
4	4	3	3
5	5	4	4
/	/	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	/
9	9	9	8
/	/	10	9
10	10	11	10
11	11	/	11
/	/	12	/
12	12	13	12
13	13	/	13

問二

④段落の役割を述べたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア ③段落の説明にあてはまらない具体例を示している。

イ ③段落の内容について、さらにくわしく説明している。

ウ ③段落の内容について、筆者独自の考えを示している。

エ ③段落とは別の新しい話題を示している。

問三

線①「蝶の多くは幼虫が食べる食草というものがきまっています」とありますが、ギフチョウの幼虫が食べる食草は何ですか。

問四

⑨段落について説明したものとして最も適当なもの^なを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 筆者の意見や感想を述べている段落

イ すでに起こったことを、事実として示している段落

ウ 事実に基づいて、今後考えられることを予測している段落

エ 現在考えられていることが正しいかどうか、疑問を投げかけている段落

問五

——線②「あれ」が指している内容を文中から三十二字でさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

く

問六

にあてはまることばとして最も適当なもの^なを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ それとも

ウ ところが エ 一方

問七

——線③「地球が温暖化すると伝染病も増えるのではないかと心配されています」とありますが、それはなぜですか。次のにあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

温暖化によって、伝染病の多い

から。

第九講 ・ 文学的文章 ⑤

◆ 心情の変化をとらえる

人間の気持ちは常に変化しています。物語文は人間をえがくものですから、読み取りの際に、心情の変化を追うことがとても大切になってきます。

(1) 場面の展開・状況の変化をおさえる

まずは、時間の経過にともなって場面がどのように動いて、登場人物の心情に変化をもたらしきつかけとなったできごと（人物どうしのやりとりや登場人物に対して起きた事件など）が起きたのかをおさえましょう。

(2) 場面の展開ごとの人物の心情をおさえる

心情を直接表したことは、情景、人物の言動などから、場面の展開ごとの人物の心情を考えます。

(3) 心情の変化を考える

(1)・(2)をふまえて、登場人物の気持ちの大き

な流れと、その変わり目に何があったかを考えます。

・ 最初の心情

← 心情に変化をもたらすきつかけとなつたできごと

・ 変化したあとの心情

物語文を読むときには、この手順に従って、登場人物の心情の流れと、その変わり目にどんなことが起こったかをとらえながら読み進めることが大切です。



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

小学校二年生の信雄^{のぶお}の家は、大阪^{おおさか}の安治川^{あじがわ}沿^ぞいで食堂^{しきやう}をやっていた。あるとき、信雄は、川^かのほとりで舟^{ふね}を家がわりにして住んでいる同じ年齢^{ねんれい}の喜一^{きいち}とその姉銀子^{ぎんこ}と仲良くなった。信雄の父晋平^{しんぺい}は、子供^{こども}たちを天神祭^{てんじんまつり}りに連れていくことになったが、祭りの当日、信雄の母が急に病気になる、晋平は行けなくなった。

信雄と喜一は仕方なく自分たちだけで、近くにある浄正橋^{じやうせいばし}の天神さんに行くことにした。

「あんまり遅^{おそ}うまで遊んでたらあかんでエ」

晋平は信雄と喜一の手に、数枚^{まい}の硬貨^{こうか}を握^{にぎ}らせた。

「銀子ちゃん^{ぎんこちゃん}は行けへんのん？」

信雄が二階^{にかい}に声をかけると、

「うん、うち行けへん」

しばらくして銀子の言葉が返ってきた。

① 二人は夕暮^{ゆぐれ}の道を駈^かけ出した。

5

近くといっても、信雄の家から浄正橋までは歩いて三十分近くもかかる距離^{きょり}であった。堂島川^{どうじまがわ}のほとりを上^あっていき、堂島大橋^{どうじまおほし}を渡^{わた}って北へ歩いていくうちに、お囃子^{*1 はやし}の音が大きく聞こえてきた。

大通り^{*2 しもた}を曲がり、仕舞屋^{しまい}が軒^{のき}を連ねる筋^{すじ}に入ると、陽^ひの沈^{しず}むのを待ちあぐねた子供たちが、道にうずくまってもう花火^{はなび}に火をつけている。酒臭^{さけくさ}いはつび姿^{すがた}の男が、同じ柄^{がら}のはつびを着^{おど}た幼な子を肩^{かた}に乗せて、ぶらりぶらりと神社に向かっている。そのあとを喜一^{なつら}と並んで歩きながら、にわかに大きくうねりだした祭り囃子^{はやし}に耳^{みみ}を傾^{かたむ}けていると、信雄はなにやら急に心細^{こころこわ}くなってきた。

② 「僕^{ぼく}、お金持^{かねもち}って遊びに行くのん、初めてや」

ときどき立ち停^{とど}まると、喜一はそのたびに掌^{てのひら}を開いて、晋平からもらった硬貨^{こうか}の数を確かめた。③ 信雄は自分の金をそっくり喜一の掌に移した。

「僕^{ぼく}のんと合^あわしたら、何でも買^かえるで」

「そやなあ、あれ買^かえるかも知^しれへんなあ」

信雄も喜一も、火薬^{かやく}を詰^つめて飛ばすロケットのお

10

20

25

もちやが欲しかったのである。恵比須神社の縁で
も売っていたから、きつと今夜も売っている筈で
あった。

天満宮のような巨大な祭りではなかったが、それ
でも商店街のはずれから境内への道まで露店がひし
めきあっている。人通りも多くなり、スルメを焼く
匂いと、露店の莫蔭の上で白い光を発しているカー
バイドの悪臭が、暗くなり始めた道にたちこめて、

④ 信雄も喜一もだんだん祭り気分にかかれていった。

喜一は硬貨をポケットにしまい、信雄の手を握つ
た。

「はぐれたらあかんで」
人混みを縫いながら、二人は露店を一軒一軒見て
歩いた。

水飴屋の前に立ったとき、
「一杯だけ買って、半分ずつ飲めへんか？」

と喜一が誘った。ロケットを買ってからにしよう
という信雄の言葉でしぶしぶその場を離れたが、こ
んどは焼きイカ屋の前でも同じことをせびった。飲

45

40

35

30

み物や食べ物売る店の前に来ると、喜一は必ず信
雄の肘を引っぱって誘うのだった。

「きつちゃん、ロケット欲しいことないんか？」

喜一の手を振りほどくと、信雄は怒ったように
言った。

「ロケットも欲しいけど、僕、いろんなもん食べて
みたいわ」

⑤ 口をとがらせて、喜一は脛の虫さされのあとを強
く掻きむしった。

(宮本輝『泥の河』)

*1 お囃子 祭りを盛り上げるための笛やたいこの音楽。

*2 仕舞屋 商売をしていない住宅。

*3 露店 出店。

*4 カーバイドの悪臭 明かりとして燃やすカーバイド

のいやなおい。

55

50

問一

——線①「二人は夕暮の道を駈け出した」とありますが、このときの二人の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 暗くなるとこわいので、早く行こうとあせる気持ち

イ 銀子が行かないさびしさをふり切ろうとする気持ち

ウ 早くお祭りに行って遊びたいと思う気持ち

エ 暗い家から早く逃げ出したという気持ち



問二

——線②「僕、お金持って遊びに行くのん、初めてや」とありますが、このときの喜一の気持ちの説明として適当でないものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 遊びに行くのが楽しくてどきどきしている。

イ 少し大人になったような気がして得意になっている。

ウ お金をなくしはしないかと少し不安を感じている。

エ もらったお金をどうしていいかわからずとまどっている。



問三

——線③「信雄は自分の金をそっくり喜一の掌に移した」とありますが、このことで喜一の気持ちはどうになりましたか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分の使えるお金が増えたので喜んだ。

イ 自分の責任が重くなったようで気持ちがしずんでいった。

ウ 買い物をするのがますます楽しみになってきた。

エ 信雄の行動の意図がわからず不安になった。

☐

問四

——線④について、次の問いに答えなさい。

(1) 「だんだん祭り気分にかれていった」とありますが、信雄はその前はどんな気分だったのですか。文中のことはを使って答えなさい。

(2)

二人を「だんだん祭り気分」にさせていったまわりの様子やことがらを次のうちから四つ選び、記号で答えなさい。

ア スルメを焼く匂い

イ ひしめきあっている露店

ウ 商店街のにぎわい

エ 前を歩くはっぴ姿の親子

オ カーバイドの悪臭

カ 掌の中の硬貨

キ ロケットのおもちゃ

ク 人通りの多さ

☐
☐
☐
☐

問五

——線⑤「口をとがらせて、喜一は脛の虫さ

されのあとを強く搔きむしった」という表現から、喜一のどんな様子がわかりますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 信雄がいじわるをしていると思い、悲しんでいる。

イ ロケットにこだわる信雄が正しいと、あきらめている。

ウ 信雄がおこったので、おどろいている。

エ 自分の意見が通らないので、不満に思っている。



第十講

・ 文学的文章 ⑥



一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

天神祭りに行った信雄と喜一は、もらったこづかいをいっしょにしてロケットのおもちゃを買おうと考えた。が、二人分のお金をあずかった喜一は飲み物や食べ物をほしがり、信雄と言いつ争う。

いつのまにか空はすっかり暗くなり、商店街に吊るされたちょうちんにも裸電球にも灯が入って、急激に増してきた人の群れがその下で押し合いへし合いしている。

すねたふりをして一步も動こうとしない喜一を尻目に、信雄はひとり境内に向かって歩きだした。歩き始めると、人波に押されて立ち停まることもできなくなってしまった。喜一の顔が遠ざかり見えなく

なつた。

信雄は慌てて引き返そうとした。色とりどりの浴衣や団扇や、汗や化粧の匂いが、大きな流れとなって信雄を押し返す。やっとの思いで元の場所に帰って来たが、喜一の姿はなかった。信雄はびよんぴよん跳びあがってまわりを見渡した。いつのまにすれちがったのか、人波にもまれている喜一の顔が、神社の入口のところで見え隠れしていた。

「きっちゃん、きっちゃん」

信雄の声は、子供たちの喚声や祭り囃子に消されてしまった。喜一は小走りて先へ先へと進んでいく。相当狼狽して信雄を捜しているふうであった。信雄は大人たちの膝元をかきわけ、必死で走った。何人かの足を踏み、ときどき怒声を浴びて突き飛ばされたりした。境内の手前にある風鈴屋の前でやっと喜一に追いついた。赤や青の短冊が一斉に震え始め、

それと一緒に、何やら胸の底に突き立ってくるような冷たい風鈴の音に包みこまれた。信雄は喜一の肩を掴んだ。喜一は泣いていた。泣きながら何かわめいた。

「えっ、なに？ どないしたん？」

よく聞きとれなかったので、信雄は喜一の口元に耳を寄せた。

「お金、あらへん。お金、落とした」

風鈴屋の屋台からこぼれ散る夥しい短冊の影が、喜一の歪んだ顔に映っていた。

信雄と喜一はもう一度商店街の端まで行き、地面を睨みながらじぐずぐに歩いた。再び風鈴屋の前に戻って来たが、落とした硬貨は一枚も見つからなかった。喜一のズボンのポケットは、両方とも穴があいていた。

② 信雄が何を話しかけても、喜一は黙りこくったままだった。人波に乗って二人は境内に流されていった。

*4 一台のだんじりが置かれ、その中で数人の男がお

囃子を奏でていた。同じ旋律の執拗な繰返しに酩酊した男たちは、裸の体から粘りつくような汗を絞り出している。数珠繋ぎに吊るされた裸電球が、だんじりのまわりでびりびり震えていた。

信雄は石段に腰をおろし、ちょうど目の前に佇んで誰かを待っているらしい浴衣姿の少女を見つめた。その少女の持つ廻り灯籠の中で、黒い屋形舟が廻っている。

鈍い破裂音が聞こえ、それと一緒に硝煙の匂いたちがこめた。信雄と喜一の前にプラスチック製の小さなロケットが落ちてきた。境内の奥に、とりわけ子供たちの集まっている露店があり、おもちゃのロケットが莫蓮に並べられていた。喜一が足元のロケットをすばやく拾いあげ、信雄の手を引いてその露店の所まで走った。

はちまき姿の男は莫蓮に座ったまま喜一の手からロケットを受け取り、
「サンキュー、サンキュー、ご苦労さん」
と漬れた声で言った。

③ 信雄と喜一は顔を見合わせて笑った。

(宮本輝 『泥の河』)

* 1 喚声こゝろ 興奮こゝろして出す大きな声。

* 2 狼狽あわてあわてふためくこと。

* 3 怒声おこつておこつて出すとなり声。

* 4 だんじりだし山車。

* 5 酩酊酒酒にようこと。

* 6 硝煙火薬火薬が燃えて出るけむり。

問

——線①「信雄はひとり境内に向かって歩き

だした」のはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 自分がひとりで先に行くふりをすれば、すねたふりをしている喜一もあきらめてついてくると思ったから。

イ すねたふりをしている喜一がにくらしく、もういっしょに行くのはいやだと思ったから。

ウ ロケットのおもちゃを売っている露店に早く行きたくて、喜一のことはあまり気にしていなかったから。

エ 歩き始めるつもりはなかったが、人波に押されるうちに立ちどまっていることができなかったから。



問二

18行目から28行目の間で、何かよくないことが起こったことを暗示している一文はどれですか。その文の初めの四字を書きぬきなさい。

問三

——線②「人波に乗って二人は境内に流されていった」とありますが、このとき、二人はどんな気持ちになっていましたか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 信雄はお金を落とした喜一に腹^{はら}を立て、喜一は一人で責任を感じて悲しい気持ちになっていた。

イ 二人とも、お祭り気分がふきとんで、お金をなくしたくやしさと情けなさで、重苦しい気持ちになっていた。

ウ 二人とも、お金をまったく持っていないことを心細く思い、早く家に帰りたいという気持ちになっていた。

エ 二人とも、境内のほうからもう一度さがして、落としたお金を絶対に見つけるんだと意気込む気持ちになっていた。

--

問四

——線③「信雄と喜一は顔を見合わせて笑った」とありますが、ここから二人の気持ちが変わ化していることがわかります。その変化が起きる最初のきっかけになったのは、どんなできごとですか。それが書かれているひと続きの二文をさがし、その初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

終わり	初め

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

二人分のこづかいを落としてしまったことで、信雄と喜一は落ちこんでしまうが、破裂音とともに二人の前に飛んできたロケットを見て、再びお祭り気分をとりもどす。

「それ、なんぼ？」

「たった八十両、どや安いやろ」

① 二人はまた顔を見合わせた。二つも買えたうえに、焼きイカが食べられたではないか。

「さあ、もういっぺんやって見せたるさかい、買うていけよ！」

危ないぞオ、月まで飛んでいくロケットじゃあと叫びながら、男は短い導火線に火をつけた。信雄も喜一も慌てて二、三步とびのくと、固唾を呑んで導火線を見つめた。

大きな破裂音とともに、ロケットは斜めに飛びあがり、銀杏の木に当たって賽銭箱の中に落ちた。慌

10

てて追いかけていく男の姿が、見物人の笑いをかった。信雄も笑った。笑いながら喜一の顔を見た。なぜかあらぬ方に視線を注いでいる喜一の目が、細くすぼんでいた。

「ちえつ、あんなどこに落ちてしもたら、もう取られへんがな」

走り戻って来て、男は莫塵の上にあぐらをかき、ハツ当たりぎみに怒鳴った。

「こら甲斐性なし！ こんなおもちゃの一つや二つ、よう買わんのんかい。ひやかしの奴はどこぞに行きさらせ」

「のぶちゃん、帰ろ」

喜一が信雄の肩をつつき、足早にだんじりの横をすり抜けて行った。

「早よ行こ、早よ行こ」

② 喜一は笑って叫んだ。人の波はさらに増して、神社の入口で渦を巻いている。

人混みを避けて露路の奥に駆け入ると、喜一は服をたくしあげた。おもちゃのロケットがズボンと体

30

25

20

15

の間に挟み込まれていた。

「それ、どないしたん？」

「おっさんがロケット拾いに行きよった時、盗ったんや。これ、のぶちゃんにやるわ」

信雄は驚いて喜一の傍から離れた。

「盗ったん？」

得意そうに頷いている喜一に向かって、信雄は思わず叫んだ。

「そんなんいらん。そんなことするのん、泥棒や」

③ 信雄の顔を、喜一は不思議そうに覗きこんだ。

「いらんのん？」

「いらん」

口汚なく怒鳴っていた香具師から、まんまどロケットを盗んできたことは、信雄にも少しな

ことであった。だが彼は心とはまったく裏腹な言葉で喜一をなじっていた。喜一の手からロケットを奪

い、足元に投げつけた。そして小走りて人混みの中にわけいっていた。喜一はロケットを拾い、追いつ

がって来て、また言った。

50

45

40

35

「ほんまにいらんのん？」

自分でもはっとする程激しい言葉が、信雄の口を吐いてでた。

「泥棒、泥棒、泥棒」

人波をかきわけかきわけ、信雄はむきになって歩いた。喜一の悲痛な声がうしろで聞こえた。

「ごめんな、ごめんな。もう盗んだりせえへん。のぶちゃん、僕もうこれから絶対物盗ったりせえへん。

そやから、そんなこと言わんとってな。もうそんなこと、言わんとってな」

振り払っても振り払っても、喜一は泣きながら信雄にまどわりついて離れなかった。二人は連れ合い

ながら、少しずつ祭りの賑わいから離れていった。
(宮本輝『泥の河』)

*1 甲斐性なし Ⅱ 意気地のない人。

*2 香具師 Ⅱ 祭りや縁日など人出の多い所で、商品売
る人。

*3 裏腹 Ⅱ 反対なこと。あべこべ。

60

55

問一

——線①「二人はまた顔を見合わせた」とあ

りますが、このときの二人の気持ちとして最も
適当なものを次のうちから選び、記号で答えな
さい。

ア 思ったよりもロケットが安いので喜んでい
る。

イ お金をなくしたことを思い出し、ぞっとし
ている。

ウ ロケット売りの熱心さに困^{こま}りはてている。

エ お金をなくしていなければ、とくやしがつ
ている。



問二

——線②「喜一は笑って叫んだ」とあります

が、喜一はなぜ笑っているのですか。最も適当
なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 信雄が人波に流される様子がおかしかった
から。

イ うまくロケットのおもちやを盗むことがで
きて、得意になっていたから。

ウ 口汚なく怒鳴っていたロケット売りの男に
仕返しができて、うれしかったから。

エ ロケット売りが、自分で失敗したのに客に
ハツ当たりぎみにどなったのがおかしかった
から。



問三

線③「信雄の顔を、喜一は不思議そうに

覗きこんだ」とありますが、その理由として適当でないものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア おもちゃのロケットを盗んだくらいで、どうして「泥棒」などと言われなければならぬのか、わからなかったから。

イ 口汚なく怒鳴っていたロケット売りからロケットを盗んだことを、信雄が少しも喜んでくれなかったから。

ウ 信雄がほしがっていたロケットをせっかく手に入れたのに、信雄はそれをほしがらないばかりか、「泥棒」と言ったから。

エ 自分がロケットを手に入れるために苦労したことを信雄も知っているはずなのに、一方的に非難されたから。



問四

に当てはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 心配

イ 痛快

ウ 残念

エ 意外

問五

線a～dのそれぞれの部分に表れた喜一の気持ちの移り変わりとして、最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 緊張きんちょう → 得意 → いら立ち → 悲しみ

イ 緊張 → 得意 → 不安 → 悲しみ

ウ 不安 → 安心 → 驚き → いら立ち

エ 不安 → 得意 → いら立ち → 後悔こうかい



第十一講・文学的文章⑦



◆筆者の気持ちをとらえる

随筆文は、体験したり見聞きたりしたことにもとづいて、考えたことや感じたことを、自由な形で書いたものです。

形式が自由なために、文章には筆者独特のものの見方・感じ方が表れやすく、また、表現にも独特のものが表れます。これらのことをふまえて筆者の気持ちを読み取っていきましょう。

(1) 文章を書くきっかけとなったことがらをとらえる

どんなことがらがもとになって文章が書かれているかをおさえましょう。

(2) 心情を直接表す表現に注意する

「悲しい」「腹が立った」「うれしくなった」「喜びがこみあげてきた」など、心情を直接表したことはや表現に注意しましょう。

(3) 情景や行動などの表現から気持ちを考える

気持ちを直接言っていないくても、情景や行動、そのほかさまざまなことからの表現から、筆者の気持ちをうかがうことができます。

(4) 筆者のものの見方や考え方が表れていることばに注意する

「うれしい」「悲しい」などの心情だけでなく、筆者独特のものの見方や考え方がわかる部分にも注意しましょう。

一題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

小学校六年生の時だった。家庭科で調理実習の時間というのがあり、「目玉焼き」を習った。五、六人のグループごとに、コンロが一つ、フライパンが一つ。ジャンケンか何かで順番を決め、一人ずつ挑戦する。残りの四、五人から見守られる中、手際よく焼きあげるのはなかなか難しい。モタモタしているうちにフライパンから煙がもうもう上がった、白身がチリチリに焦げてしまったり……。そのたびにぎやかな笑い声。うまくいけば拍手喝采。だんだん自分の番が近づいてくると、ドキドキする。

10

① 私は、小さい時から手先がほんとうに不器用で、この日は朝から憂鬱だった。うまく焼けるだろうか、という以前の大問題——うまく割れるだろうか、という不安を胸に抱きつつ、登校した。

すき焼きなどで生卵を割るとき、私はよくぐちゃっと黄味をつぶしてしまう。もちろん、すき焼

15

きなら支障はないのだが、目玉焼きの場合はちょっとまずい。ちよつとどころか、致命的である。ぐちゃつとなつたらどうしよう……それはっかり気にしていたら、昨日は卵の夢を見てしまった。

20

不幸なことに私のグループは人数がやや多く、最後の私гаもじもとフライパンの前に立つころには、他グループからの冷やかし組も集まってきて、すごいギャラリーになってしまった。

卵を割りそねた子はまだいいことが、

25

さらにプレッシャーをかける。すっかり舞いあがってしまった私。ええいとはかり卵をフライパンのふちに打ちつけ、そのままぐしゃつと握りつぶすような格好になってしまった。

わあつと湧きあがる声。こういう時、子どもは残酷である。ピーピーと口笛を吹く子もいれば、手を打ってはやす子もいる。その後どんな目玉焼きができたのか全く覚えていない。見届ける前に私の目玉がうるんでしまっていた。

30

家に帰ってこの「事件」のことを母に話している

35

と、また涙^{なみだ}が出てくる。

「落ち着いてやれば何でもないことなのに、ばか^②ね、ほら、やってごらん」

笑いながらフライパンと卵を出してくる母。うわっもう見たくもないと思いながら、一緒にコンロの前に立った。おそろおそろ卵をフライパンのふちにぶつける。ぺちつと殻^{から}にひびが入るだけで割れなかった。ぺちつぺちつぺちつ……うーん。もどかし

くなっていきなり力をこめた瞬間^{しゅんかん}、ぐしゃっ——またやってしまった。流れだす黄味を、絶望的な思いで見ている私に、明るく母が言う。

「さあ、おいしい炒^いり卵を作ろう」

フライ返しを菜箸^{さいし}に持ちかえさせられて、ほら、ほら、早くかきまぜて、と急^せかされる。

「このへんでおしょう油を入れると、いい香り^{かお}がするのよ」

できたての、ほわほわの、炒り卵。——おいしかった。負け惜^おしみではなく、目玉焼きよりもずっと。

なんだか元気が出てきて、もう一度やってみようか

な、と思う。

「フライパンを火にかけているとあせつちゃうから、まずお茶碗^{ちやわん}に割ってごらん」

不思議なほど、楽な気持ち。今度は、うまくいった。「もしここで失敗したら、オムレツにしちゃえばいいの」

ありあわせのハムとミックスベジタブルを混ぜてその場で母が焼いてくれたオムレツ。これがまたおいしかった。夢のように。

思えばあれが、母と一緒に台所に立って何かを習った最初のことだった。今でも生卵を割るときは、家庭科室での光景がふっと頭をよぎる。幼^{おな}い心にうけた傷^{きず}は深い。が、一方でこのできごとは、料理に興味を持つきっかけにもなった。卵一個で母が見せてくれた魔法^{まほう}。

(俵^{たわら}万智^{まぢ}『りんごの涙』)

*1 致命的^① ここでは、取り返しのつかない失敗。

*2 ギャラリー^② 見物人。

*3 プレッシャー^③ 気持ちのうえておしつけられること。

問一

この文章を内容や時間のうえから大きく三つに分けるとすると、二つ目と三つ目のまとまりはどこから始まりますか。それぞれの初めの五字を書きぬきなさい。

二つ目

三つ目

問二

線①「この日は朝から憂鬱だった」とありますが、どのような気持ちがあったから「私」は憂鬱だったのですか。次の□にあてはまることばを、文中から十六字で書きぬきなさい。

調理実習で目玉焼きを作るときに、生卵を

--

問三

調理実習で目玉焼きを習った日に、「私」が泣いたことが書かれている一文を文中から二つさがし、それぞれの初めの五字を書きぬきなさい。

問四

線②「ばかね、ほら、やってごらん」とありますが、母はどのような気持ちでこう言ったのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 失敗した理由がわからず、あきれる気持ち
イ そんなこともできないのかと、腹立たしい
ウ むすめの悲しみを理解して、一緒に悲しむ
エ だいたいようぶだと、むすめをほげます気持ち

気持ち

気持ち

エ だいたいようぶだと、むすめをほげます気持ち

気持ち

--

問五 — 線③ 「卵一個で母が見せてくれた魔法」

とありますが、どのようなことを「私」は「魔法」といつているのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 生卵を割るのが苦手だった「私」に、生卵を割ることを短時間で教えてくれたこと

イ 卵料理だけは失敗してもだいじょうぶだということ、を、「私」に楽しく教えてくれたこと

ウ 卵なんてもう見たくもないと思っていた「私」に、料理に興味を持つきっかけを作ってくれたこと

エ 調理実習で失敗して傷ついたことなど、たいしたことではないと、「私」に思わせてくれたこと



第十二講・文学的文章⑧



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

青森県でりんごを栽培^{さいばい}しているという女性と、ある会合^{いっしょ}で一緒にした。その日は東京にお泊^{とま}りになること。宿^{しゆく}がたまたま私の住^{わし}んでいる町と同じ方向だったので、帰りも一緒に地下鉄に乗った。

自分のことを「りんご園のおかみ」とその人は言う。小柄^{こがら}で、どこか少女を思わせる二重まぶたの目。おっとりとした話し方なので、その「りんご園のおかみ」という言葉も、なにか素敵^{すてき}な絵本の中の言葉のように、*ロマンチックに響^{ひび}いた。

今年は天候が不順で心配だというような話をしながら、ふとその人は何かを思いついたらしく、いたずらっぽい目で私を見る。

①「そうだ、あなたに質問してみよう」

10

「えっ、何ですか」

②「りんごの花で布を染めると、どんな色になると思いますか？」

本物のりんごの花を、私は見たことがない。写真か何かで、たしか白っぽい花だったように記憶^{きおく}している。まるで根拠^{*2}はないが、なんとなく淡^{あわ}いピンクかなという気がして、そう答えた。

「うふふ、正解はこれ」

ハンドバッグの中から取り出された一枚^{いちまい}の木綿^{もめん}のハンカチ。広げると、うすい黄色^③にうすいきみどり

色を混ぜてやわらかくしたような色だった。幼^{おな}いころ、風邪^{かぜ}をひくと必ず母が食べさせてくれた、すり

おろしたりんごの色にも似ている。そんな記憶^{*3}もあいまって、私はしばらく、うつとりとそのハンカチに見入ってしまった。りんごの浴びた陽^ひざしがハンカチにも吸収されて、それが内側からやさしく光つ

25

20

15

ているような感じである。

「きれいですねえ」

やや間の抜けたタイミングで私がそう言う、その人は嬉し^{うれ}そうにほほえんで、またきちんとたたみなおす。その手つきのやさしさは、りんごへの愛情をごく自然に感じさせた。

「私ね、これ、りんごのなみだ色^④って呼んでいるの」

「えっ、なみだ色？」

「そう。なみだ色」

その時、はかりしれない苦勞がちらりと、「りんご園のおかみ」の顔を横ぎったように思われた。花の咲く^さよろこび、収穫^{しうかく}のよろこび。けれどそこに至る^{いた}までには、数えきれない涙^{なみだ}が流されている――^⑤そ

ういう意味だろうか、と思った。が、そういう意味ですか、とは聞けなかった。具体的にどういう涙で
すか、とも問えなかった。それを表面に出さないと
ころが、その女性の魅力^{みりとく}のように思われたから。そ
ういう涙は木綿にしっかり吸わせて、美しいハンカ
チにして、ハンドバッグにしのばせておく。^⑥涙の意

45

40

35

30

味は、決して言葉にはならないだろう。

私には、なみだ色のハンカチがあるだろうか、とふと思った。

りんごの花の咲く季節には、まだ遠い。

(^{へらまち}俵万智 『りんごの涙』)

*1 ロマンチック⇨現実的な世界をはなれていて、うっ

とりとするような美しい様子。空想的。

*2 根拠⇨もともになる理由。

*3 あいまって⇨たがいに作用し合って。

50

問一

線① 「そうだ、あなたに質問してみよう」

とありますが、「りんご園のおかみ」はどのような言い方でこのことを言ったと考えられますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 「しんけんな質問をしますね」と、改まった言い方

イ 「ためになる質問をしますね」と、自信たっぷりの言い方

ウ 「正解がわかるかしら」と、ちゃめっ気たっぷりの言い方

エ 「たいした質問ではないけれど」と、ன்றいよする言い方

☐

問二

線② 「りんごの花で布を染めると、どんな色になると思いますか？」とありますが、「りんご園のおかみ」はこの質問の答えとして「私」

に何を見せましたか。文中から十字で書きぬきなさい。

問三

線③ 「うすい黄色にうすいきみどり色を

混ぜてやわらかくしたような色」とありますが、このハンカチの色について「私」がさらにくわしく説明している一文を文中から二つさがし、それぞれの初めの五字を書きぬきなさい。

問四

——線④「またきちんとたたみなおす」とありますが、この様子を見ていた「私」は、「りんご園のおかみ」から何を感じ取りましたか。文中から七字で書きぬきなさい。

問五

——線⑤「そういう意味」が指し示している内容を次のようにまとめました。

にあてはまることばを、Aは九字、Bは十四字で文中から書きぬきなさい。

りんごの花が咲くよろこびやりんごを収穫するよろこびを感じるまでには

があり、

B という意味

A

問六

——線⑥「涙の意味は、決して言葉にはならないだろう」を言いかえたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
 ア 涙の意味は本人にもよくわからないだろう。
 イ 涙の意味を他人に説明することはないだろう。
 ウ 涙の意味を説明しようとしても、つらくて言えないだろう。

エ 涙の意味は単純^{たんじゆん}ではなく、言葉では表現しきれないだろう。

B

--

問七 「りんご園のおかみ」が言ったことばのうち、

「私」にとってもっとも印象的だったものを文

中から八字でさがし、書きぬきなさい。

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

① 四十^し万^{まん}十^と川^{がわ}で漁をして暮らしているおじさんに話を聞いた。舟^{ふね}の上で、日本最後といわれる清流に浮^うかびながら。

「柴^{しば}づけ漁」というその漁法は、実[＊]に素朴^{そぼく}なものである。柴をたばねたものを川に沈^{しず}め、一週間から十五日たったところでひきあげる。すると、そこに住みついた川エビやウナギがとれるというしくみだ。「住む」というのがミソで、だから囲いをしなくても逃^にげられることはない。時間とともに獲物^{えもの}が増えてゆくことはあっても、決して減りはしない。

柴は、おじさんが山で刈^かってくるという。「だから、半分は山の仕事」だそうだ。川エビとウナギでは住まいの好み^{ちが}が違^{ちが}うらしく、ウナギのほうは葉っぱを多くしてやらないとだめ、とのこと。そのあたりは、長年の経験がものをいう。

目の前^{まへ}で私^{わたし}のために、ウナギをさば^②いてくれた。

15

10

自然に川に棲息^{＊₂せいそく}しているウナギは、とてもスマートだ。まず、キリ^{＊₃}のようなもので首のあたりをトンとついで、まな板の上に固定する。スーツと背中から包丁を入れ、ひらく。肝^{＊₄きん}をとって骨をとってできあがり。三等分にしたものを、その場でかば焼^{やき}にしてもらった。舟の上に、ちゃんとコンロが積^たんであるのだ。私はふだん、魚をさばく時には、なんとなく背中^③のあたりがすーすーしてしまう。活け造りの魚の目玉^④なども気になってしまいうほうである。

25

が、おじさんがウナギをさばいてゆく一部始終を見ていて、そんな感じは全くなかった。むしろ「美しいな」と思った。ほんとうにおいしくいただいた。「ただ、ちょっとかわいそうな気がしますね……」私がそう言ったとき、ぴつと一瞬^{いっしゆん}、おじさんの顔がこわばった。

30

「それはしかたのないことじゃろ。人間に食べられるが、こいつらの運命よ」

終始なごやかな笑顔^{えがお}で話してくれていたの、厳しい表情^{あざ}が、逆に鮮やかに印象に残っている。まこ

35

⑤*5 と安易に言ってしまった「かわいいそう」を、後悔した。ふだん、自分が魚をさばいたり、活け造りの目玉を見たりして思う「気持ち悪い」という感覚も、同じ安易さからきているのではないかと思った。

⑥ おじさんにさばかれるウナギは、ちつとも気持ち悪くない。その違いは何だろう。

その違いは、魚とのつながり方ではないかと思う。同じ自然の中で生きているものとして、おじさんと魚はつながっている。都市で生活している私たちは、自然から離れた位置^{はな}にあつて、魚と関わりをもつ。だからいとも簡単に「かわいそう」と言えるし、無責任に「気持ち悪い」と感じてしまう。

⑦ おじさんは漁をしながら、魚たちにどんな気持ちを抱^{いだ}いているのだろう。「かわいそう」ではなくて……。

「ごちそうさま、と言いながらさりげなく聞いてみた。しばらくの沈黙^{ちんもく}のちに返ってきた答えは、「ありがとう」だった。

(俵万智『りんごの涙』)

50

45

40

*1 素朴^{たんじゆん} Ⅱ ここでは、しくみが単純なこと。

*2 棲息^{せいしき} Ⅱ 生物が生きて、住んでいること。

*3 キリ Ⅱ 材木などに小さな穴をあける、先のとがった

道具。

*4 肝^{ぞう} Ⅱ かん臓。

*5 安易^{あんい} Ⅱ 深く考えることのない、気軽な様子。

問一

——線①「四万十川」が水のきれいな川であることを表している十一字の表現を文中から書きぬきなさい。

問二

——線②「ウナギをさばいてくれた」とありますが、おじさんがウナギをさばく様子を、「私」はどう感じましたか。文中から四字で書きぬきなさい。

--	--	--	--	--

問三

——線③「活け造りの魚の目玉なども気になつてしまう」とは、どういうことを表していますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 魚の目玉について目がいつてしまうということ

イ 魚の目玉を気持ち悪いと感じるということ
ウ 魚の目玉の色や形に興味があるということ
エ 魚が新せんかどうかを目玉で確認するということ

問四

——線④「おじさんがウナギをさばいてゆく一部始終」とありますが、その様子が具体的に書かれているひと続きの三文を文中からさがし、その初めと終わりの六字を書きぬきなさい。

初め

終わり

--

問五

おじさんの表情が大きく変わったことを表している七字のことは文中から書きぬきなさい。

問六

線⑤「安易に」と近い意味で使われていることばを、文中から二つ書きぬきなさい。

問七

線⑥「おじさんにさばかれるウナギは、ちつとも気持ち悪くない」とありますが、「私は、自分で魚をさばくときに魚を「気持ち悪い」と感じるのはなぜだと考えましたか。次の□……にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

問八

自然と離れて、都市で生活している自分は、魚と直接□……いないから。

線⑦「おじさんは漁をしながら、魚たちにどんな気持ちを抱いているのだろう」とありますが、「私」のこの疑問ぎもんに対する答えとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア ほこらしい気持ち
イ 感謝の気持ち
ウ 申し訳ないわけ気持ち
エ あきらめの気持ち

第十三講・説明的文章⑤



◆正確な読み

説明文を正確に読みこなすために、次のことに気をつけるようにしましょう。

(1) 話題をつかむ

何について述べようとしているのかを正しくつかみましょう。説明文は、説明している内容を読む人に分かってもらうために、話題（問題提起）がはっきりと書かれています。

(2) 事実と意見とを読み分ける

説明のための事例や事実の部分なのか、筆者の意見や考えを述べた部分なのかを考えながら読みましょう。

(3) 原因・理由・根拠をとらえる

ある物事や自分の考えを他人に分かってもらうためには、なぜそうなるのか、なぜそう考えるのかという原因や理由を述べる必要があります。

す。そこで、文章を正確に読みこなすうえでは、「～から」「～ので」などの原因・理由を示すことばや、「だから」「なぜなら」などの接続語に注意して、筆者がどんな理由や根拠にもとづいて論を進めているかを考えながら読み進めることが大切です。また、これらのことばが使われていなくても、原因・理由↓結果・結論の関係になっている場合があります。この場合、自分でこれらのことばをおぎなうて、その関係を確かめてみましょう。

一 題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

「生まれたばかりの赤ん坊は、視力も運動能力も未発達ですが、聴覚だけはほぼ完全に発達しています。

母親の胎内たいないにいるときからすでに、胎児は母親の聞いている音を聞いているといわれるほどです。たとえば、母親がテレビを見れば、その音声に、胎児が反応しているといわれます。

こうしたことを考えれば、耳みみからの教育は、生ま

れたときから行わなくてはならないことがわかります。できるだけ早く、インプリンティングを始めなくては いけません。ところが、ほかの能力が未発達のために、つい、聴覚もそうかと思いい無頓着むとんちゃくになり、しっかりとしたことは②の教育をしないまま、すこしでしまいがちです。

こどもにとって、生まれてはじめてのことばは、母親のことばです。もちろん、文字を教えても意味がありません。ただ、ことばを聞かせるだけでよい

15

10

5

のです。生まれたらなるべく早く、その日のうちに、母親の声を聞かせるのが望ましいといわれています。」

母親は、こどもにとってはじめてのことばの先生です。その先生が、もしもことばをきちんと話さなければ、どうなるでしょうか。人間のことばの文化が、世代を超えて伝わらないことになってしまいます。これは、たいへんなことです。

そして母親はことばを教えるのに適しています。

不思議なことに、古今東西を問わず、女性は男性にくらべてよくしゃべるといわれています。近ごろの説によれば、エストロゲンという女性ホルモンの影響で、女性は男性よりも言語能力がすぐれているのだそうです。つまり、自然の摂理そとせつりによって、こどもを産むことと、赤ん坊にことばを伝えていくことが、結びついているのです。

耳からことばを覚えていく赤ん坊にとって、先生である母親のことばはとても大切です。こどもにこ

35

30

25

20

とばを刷り込むために、おかあさんは、とにかくたくさんしゃべらなければなりません。こどもは、それを何度も何度も、くりかえし聞いているうちに、やがて、すこしずつことばを覚えていくのです。

④ この、はじめのことばのことを、私は、「母乳ぼにゅう語」と呼んでいます。赤ん坊が母乳だけで、体がど

んとん成長していくのと同じように、こどもの内面は、母乳語だけで育っていきます。母乳が体の糧かてなら、母乳語はこころの糧というわけです。母親のことばだけで、こどものこころは、どんどん発達していきます。

アメリカでは、生まれたばかりのこどもに話す母親のことばを、「マザーリーズ」といいます。マザーリーズとなることばは、次のような特徴とくちょうをそなえているといわれます。

- ・ 普通ふつうより、すこし高い調子の声で話す
- ・ 抑揚*3を大きくする
- ・ くりかえし言う

・ おだやかに、できれば、ほほえみを浮かべて話す

このなかでとくに注目したのは、「A」ということです。というのも、母乳語はインプリンティングのことばだからです。どんなに優秀ゆうしゅうな子でも、はじめて聞いたことばを、一度や二度では覚えられません。何度も何度もくりかえし聞いていくうちに、自然にことばがわかってくるのです。これが、はじめのことばを習得する基本です。

このため、母乳語では、Bという行為こうゐが、どうしても必要なのです。

(外山滋比古『わが子に伝える「絶対語感」』)

*1インプリンティング親がやってみせ、子がまねするというのがくりかえすことで覚えていく、動物によく見られる学習形態。

*2摂理Ⅱこの世のいろいろなことを支配している法則。

*3抑揚Ⅱ声やことばの調子を上げたり下げたりすること。

問一

——線①「耳からの教育は、生まれたときから行わなくてはならないことがわかります」とありますが、筆者がこう述べるのは、どのような事実があるからですか。次の□にあてはまることを文中から十四字で書きぬきなさい。

赤ん坊は生まれたばかりでも□いるという事実

問二

——線②「ことばの教育」とありますが、「ことばの教育」をするとは、どうすることですか。次の□にあてはまることを本文の「」で囲まれた部分から八字で書きぬきなさい。

ことばに□こと

問三

——線③「母親はことばを教えるのに適しています」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア こどもがはじめて耳にすることは、母親のことばだから。

イ 母親はいつもこどものそばにいて、こどもができるから。

ウ こどもの内面は、母親のことばだけで発達していくから。

エ 女性の言語能力は男性よりすぐれているから。

--

問四

——線④「この、はじめのことばのことを、私は、『母乳語』と呼んでいます」とありますが、筆者は「母乳語」をどういうものだと考えていますか。次の□にあてはまることばを文中から七字で書きぬきなさい。

母乳が赤ん坊の体を成長させるように、母乳語は□を発達させていく。

問五

□ A・Bに共通してあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 普通より、すこし高い調子の声で話す
- イ 抑揚を大きくする
- ウ くりかえし言う
- エ おだやかに、できれば、ほほえみを浮かべて話す

--

問六

この文章は大きく三つの意味段落に分かれています。それぞれのようないくつについて述べていますか。次のうちから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア こどもがことばを覚えていくうえでの母親のことばの大切さ
- イ はじめのことばを習得するうえでの基本
- ウ 生まれたばかりの赤ん坊に母親の声を聞かせることの重要性

第一段落	第二段落	第三段落
□	□	□

第十四講・説明的文章⑥



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ことばとは、一種の記号です。言い換えれば、ものごとをことばに結びつける約束が、ことばの体系をつくり上げているのです。国によって、その結びつきの約束が異なるために、日本の「水」が、英語圏では「ウォーター」、ドイツ語なら「ワッサー」、フランス語なら「オー」になるわけです。

5

母乳語は、まず、この結びつきの約束を覚えることから始まります。たとえば母親が、イヌを見るたびに「ワンワン」ということばを語りかければ、こどもの脳には、ワンワンということばが刷り込まれます。そして、そのうちに、イヌという動物と、ワンワンということばが結びつくようになります。これが、ことばを覚えるということです。

10

もちろん、一度や二度ではだめです。どうしても、刷り込みが必要なのです。ものを学び、覚えるために、くりかえすということは、もっとも大切な方法ですが、ことばも例外ではありません。

15

このようなやり方で、充分に母乳語を与えられた子は、ものごとばの結びつきを自然な形で体得することができます。この過程に必要な期間は、およそ三十カ月。すくなくとも二年半程度は、母乳語の習得に時間をかける必要があります。

20

さて、人間のことばが、イヌという動物をワンワンと結びつけるだけのものなら、ことばの習得はそれでおしまいということになります。(A)、人間にとつて、ことばとはそれほど単純なものではありません。自らをホモ・サピエンス(知恵ある人)と称する私たち人間は、母乳語とは別の、より高

25

度で複雑な、もうひとつのことはを身につけているのです。 30

母乳語が表すことができるのは、具体的なものとに限られます。(B)、ことは、ひとつひとつ、ものごとに、ぴったり結びつくようになるという約束が、母乳語の基本です。

これに対して、私たちのもっているもうひとつのことは、ものごととかならずしも一致はしません。母乳語のように、目に見えたり、触ったりすることのできる「何か」を指し示すのではなく、目に見えない、抽象的な「ものごと」を表すことはなのです。 40

このとき、ことは、ものとの関係が断ち切られています。^②母乳語で結びつけた、ものごとばとの関係を、こんどは再び切り離さなくてはいけないわけです。

せっかく結びつけた、ものごととことばの間を切り離すのですから、ことばにとつては、じつにたいへんなことです。このため、母乳語^③については、ほとんどのこともがうまく身につけられるのに対し

45

35

て、こちらの抽象的なことばについては、うまく習得できないことも、すくなくありません。この段^④階を、私はことばの「離乳期」と考えています。

母乳を飲んでいた子がやがて離乳するように、母乳語を与えられていたことばは、やがて、抽象的なことばの使い方をする離乳語へ切り換わらなくてはなりません。もちろん、ことばの離乳は、実際の離乳と違って、離乳したあとも、母乳語と離乳語の二つの種類の言語をともに使い続けるという特徴があります。具体的なものと結びついた母乳語と、抽象的なものを表す離乳語。この二つの言語の併用で、人間は高度な文化をつくりあげてきたわけです。

ところが、こうした二種類の言語を意識しながら、子育てをしている母親は、あまりいいのではないのでしょうか。多くの場合、母乳語だけで子育てが終わってしまい、離乳語への移行が、きちんと行われていないように思われます。^④あいまいなことばの教育は、やがて、ことばの言語能力の形成に、大きな影響を及ぼすことになります。

65

60

55

50

問三

——線②「母乳語で結びつけた、ものごととはどの関係」とありますが、その結びつけ方を具体例で説明しているのはどの段落(形式段落)ですか。その初めと終わりの四字を書きぬき下さい。

ゝ

問四

——線③「母乳語については、ほとんどの子どもがうまく身につけられる」のは、母乳語がどんなことばだからですか。「ゝことば」にながる二十五字以上三十字以内のことばを文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きぬき下さい。

ゝ

ことば

問五

——線④「あいまいなことばの教育」とは、どんなことを指していますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア こどもに母乳語を教えても、離乳語はきちんと教えないこと

イ 母乳語と離乳語の二種類の言語があることを教えないこと

ウ 抽象的なことばをこどもに教えること

エ 母乳語と離乳語をいっしょにこどもに教えること

--

問六

この文章では、「母乳語」と「離乳語」について説明されていますが、次のことからは、(1)「母乳語」、(2)「離乳語」、(3)「母乳語」と「離乳語」の両方、のどれにあてはまりますか。それぞれ記号で答えなさい。

ア 習得するうえで、すくなくとも二年半程度の時間をかける必要があることばである。

イ 人間が高度な文化をつくりあげるために用いられてきたことばである。

ウ 表すことができるのは、具体的なものごとに限られることばである。

エ 目に見えない、抽象的なものごとを表すことばである。

オ ほとんどのこどもがうまく身につけられることばである。

カ ものとの関係が断ち切られていて、ものごととかならずしも一致しないことばである。

(3)

(1)

(2)

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

母乳語は、具体的なことばです。イヌといえ、
本当のイヌ、あるいは、イヌの絵がなくてはいけません。イヌを見たことのない子に、イヌということばを教えることはできないのです。

これにたいして離乳語では、ことばはかならずしも、ものごとと結びついていなくてもよいのです。そのものが実在していなくても、あるかのように、ことばを使うことができるわけです。

①たとえば、イソップ寓話^{*1}にある、オオカミ少年の話^{*2}を例にあげてみましょう。

少年が、村人たちに、

「オオカミが来た」

と言ったとき、このことばは、事実とは結びついていませんでした。つまり、ウソだったのです。村人は、このことばを本当だと思い、大騒ぎ^{*3}をしました。少年は何度もウソをつき、村人はそのたびにだ

15

10

5

まされました。これが何度くりかえされると、村人はようやく、このことばが事実の裏づけのない、ウソだと悟^{さと}るのです。

このオオカミ少年のことばが、離乳語のひとつです。つまり少年は、離乳語を悪用して、村人をおどろかせたのです。

このように、離乳語の特徴のひとつは、ウソがつけるといことです。そんなふうになると、ウソなどつけなくてもよいではないかという人も、いるかもしれません。けれども、ウソというのは、人間の文化のなかで、とても大切な役割^{やくわり}をはたしているのです。

*2 フイクション、創作^{そつさく}、発見、発明など、人間が新

たにつくりだすものはみな、ウソから生まれたマコト

といっても過言ではありません。人間は、価値^{かち}の

あるウソをつきつきとつくり出しながら、文化を築

いてきたのです。ウソは他人の迷惑^{めいわく}になることがあるために、モラルとして抑制^{*4}されて、いけないこと

になっていますが、一方で、人間がウソをつくこと

ができなければ、これまでのような文化は生まれなかったかもしれません。これが、文化のむずかしいところでもあるのです。

こどもが母乳語から離乳語の段階^{だんかい}に入り、離乳語の習得がすすんでくると、つくり話やホラ話を喜ぶようになります。だからといって、この時期に、正直が大切だというのでいっさいウソを認めないよう^③なしつけをしてしまうと、こどもの想像力が萎縮^{みちく}してしまうおそれがあります。子育てをしている母親を見ていると、そのようなことが、しばしば起こっていることに気づかされます。

④ ウソは、人の迷惑にならない限りは、許容することも必要です。離乳語は、豊かなウソをつくり出しながら、想像力を広げ、頭のはたらきをよくする作用があるのです。母乳語と調和しながら離乳語が発達するこの時期は、こどもごろころ、つまり三つ子の魂^{なまこ}が、つくりあげられる時期に重なります。はじめにことばありき、ということばは、三つ子の魂にもいえることなのです。

(外山滋比古『わが子に伝える「絶対語感」』)

*1 寓話Ⅱいろいろな教えをふくんだたとえ話。

*2 フィクションⅡ想像によってことからや話をつくり出すこと。

*3 モラルⅡ道徳。人間として守らなければならない決まり。

*4 抑制Ⅱ物事の動きや勢いをおさえてとめること。

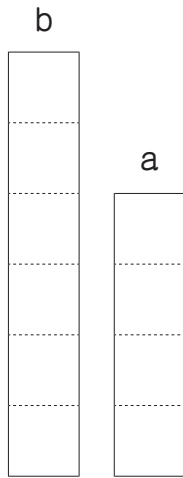
*5 萎縮Ⅱ元気がなくなり、ちぢこまっておくびょうになってしまうこと。

問一

線① 「たとえば、イソップ寓話にある、

オオカミ少年の話为例にあげてみましょう」とありますが、「イソップ寓話にある、オオカミ少年の話」は、どういうことを述べるための例としてあげられているのですか。次の□a・bにあてはまることばを、aは四字、bは六字で文中から書きぬきなさい。

離乳語は、□aとかならずしも結びついていなくてもよいので、□bという特徴があるということ



問二

線② 「文化のむずかしいところ」とあり

ますが、どういう点で「むずかしい」のですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 文化のレベルを高めるためには、より豊かなウソのつき方をこどもに教えなければなら
ない点

イ ウソはいけないことになっているが、ウソをつくことができれば文化も生まれない
という点

ウ 文化を生むためのウソと、人に迷惑をかけるウソの区別がつきにくいという点

エ じょうずなウソのつき方をどのようにしてこどもに教えるかという点



問三

——線③「この時期」とありますが、どうい

う時期ですか。次の□ a・bにあてはまる
ことばを、aは六字、bは八字で文中から書き
ぬきなさい。

□ a がすみ、こどもが □ b を喜ぶよう
になる時期

b	a

問四

——線④「ウソは、人の迷惑にならない限り

は、許容することも必要です」と筆者が考える
のはなぜですか。次の□ a・bにあてはま
ることばを、aは三十三字、bは十五字で文中
からさがし、それぞれその初めと終わりの四字
を書きぬきなさい。

離乳語には □ a というのはたつきがあるの
で、いつさいのウソを認めないようなしつけを
してしまうと、 □ b おそれがあるから。

b	a

問五

この文章の内容と合っているものを次のうちから二つを選び、記号で答えなさい。

ア ウソは文化を^{はってん}発展させていくために必要であつたが、これからはウソをつかなくてもよい社会になることが望まれている。

イ 人間は、価値のあるウソによって文化を築いてきたのであり、ウソは人間の文化のなかでとても大切な役割をはたしている。

ウ 子育てをしている母親を見ると、人の迷惑にならないようなウソをしばしば許容していることに気づかされる。

エ 母乳語と調和しながら離乳語が発達する時期は、こともごとくがつくりあげられる時期でもある。

☐☐

第十五講・文学的文章⑨



◆表現を味わう

読書とは、文章に書かれていることがらを読み取ることでありますが、すべてではありません。表現の一つ一つをとらえて味わうことによって、受ける印象がよりあざやかになったり、想像が広がったりして、読書が深まり、楽しいものになります。

たとえば、「ものさびしい雨が降^ふっている。」という表現に対して、単に「雨が降っているんだ。」と思うのではなく、「雨がしとしと降っているんだな。これを書いた人は、今さびしさを感じているのだろうか。何かあったのかな。そういえば、ぼくも雨の日にさびしい気持ちになったことがあるぞ。……」というように想像を広げられるようになる。読書がより楽しくなってきました。

(1) 表現の工夫^{くふう}と効果を味わう

心情や情景を効果的にえがくために、さまざま

まな表現技法が用いられます。

また、ある表現がストーリーの上で重要な役割^{やく}を果たしている場合もあるので、そういう表現にも目を配って読むようにしましょう。

(2) 表現の特色から作品の雰囲気^{ふんいき}を感じ取る

文末表現（「です・ます調」か「だ・である調」か、現在形か過去形か、など）や、一文の長さによって、作品の印象は変わります。そのような表現の特色にも注目して作品を味わいましょう。

一 題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

午前中の授業は平穩^{へいおん}に過ぎ、給食の列に並^{なら}ぼうとした時、「よお」と肩^{かた}に手を掛けられた。福ちゃんが博士^{ひろし}を見ていた。

「ハカセはどっちだべ」と囁^{ささや}いた。その目がかなり暗く光っているのに博士は気づいた。

「どういう意味？」

「おれにつくのか、ナカタの仲間^{*2}なのか」

「サンペイ君とは、友達だよ。サンペイ君は嘘^{うそ}つきじゃないよ」

どうして福ちゃんには分からないのだろう。サンペイ君は本当はすごいのだ。それをみんなに分かってもらえればいいのに。

「そうか、わかった」

福ちゃんはA席^{もく}に戻^{もど}っていった。

でも、その時からの、福ちゃんの行動ときたら、あっさりしたもの、なんてもんじゃなかった。(ア)

15

10

5

クラス中をまとめて、博士とサンペイ君をのけ者にしたのだ。当時、博士は「村八分」という言葉を知らなかったし、また「ハブる」という言葉もまだなかった。だから、ただ、現象として、誰^{だれ}からも話しかけられず、こちらから話しかけても無視^{むし}されるということだった。

博士は学級委員長だったから、よく前に立って話をまとめたりしなければならず、そんな時には本当に困った。だれも、手を挙げてくれなかったり、指してもはぐらかされたり。(イ)

一度など博士は福ちゃんの机^{つくえ}の前までB歩^ふいて聞いて聞いてみた。

「ねえ、なんで、福ちゃんは、サンペイ君を目の敵^{かたき}にするわけ？ 別に悪いことしたわけでもないし、おかしいよ」

すると福ちゃんはふんと鼻を鳴らして、「虫がすかん。理由はそれでいいべ」と言い捨^すてた。(ウ)

本当にただそれだけのことなのかもしなかった。でも、博士は釈然^{*3}としなかった。昔みたいになん

なと話したいという気持ちはあったけれど、かといつて②こんな不合理なことを福ちゃんに言われたからといつて従^{したが}っている連中なんか軽蔑^{けいべつ}してやる、というような気分もあった。

必然的に、博士はいつもサンペイ君と一緒に^{いっしょ}だった。サンペイ君の本棚^{ほんだな}は博士の本棚になり、逆に博士が持っていた子供向け^{こども}の科学読本をサンペイ君は喜んで読んだ。そして、天気がよければ必ず釣^つりをした。博士もすぐに腕^{うで}を上げて、クチボソ相手ならサンペイ君との「先に五十匹^{ごじき}釣った方が勝ち」マッチで勝負^{しやうぶ}することすらあった。(工)

近場での小物釣りではそのうちに飽^あき足らなくなつて、少し下流でコイの吸^すい込み釣りを始めた。練^えり餌^えをつけた大きめの仕掛けで置き釣りにするから、竿^{さお}を立てて並べてしまうとあとは待つのみ。しばしば博士とサンペイ君はあくまで高い空の下で河原^{かはら}に腰^{こし}を下ろし、きらきらする水面の黄金色の照り返しを見ているのだった。

「釣りはいいなあ、本当に釣りはいい」とサンペイ

君はよく口にした。「ぼくもよくこうやって、青空の下でおじさんと釣りをしたものだよ。おじさんはね、高い空は人の気持ちを大きくするとよく言っていたよ」

漫然^{まんぜん}と話すサンペイ君の視線の先を、遠くジャンボ機が飛んでいくのが見えて、たしかに博士も60 C になった。

(川端裕人『今ここにいるぼくらは』)

*1ハカセ博士のこと。名前の読み方からこう呼^よばれている。

*2ナカタサンペイ君のこと。

*3釈然^{しやくぜん}Ⅱ疑^ういなどが消え、気持ちがさっぱりする様子。

*4クチボソⅡ全長八センチメートル前後のコイ科の淡水魚^{すいぎよ}。

*5漫然^{まんぜん}Ⅱぼんやりしている様子。

問一

次の段落は文中にあったものです。もとにもどすとしたら、どこに入りますか。文中の(ア)～(エ)から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

以前だったら、博士はただ自信を失い、気持ちもボロボロになってしまっていたはずだ。転校したてで言葉を笑われていた頃もそうだった。でも、今回は違った。サンペイ君みたいに「気にしない」ことは出来ないにしても、とにかく自分がダメなんだとは思わずにいられた。

問二

適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア のっそりと イ あっさりと
ウ つかつかと エ そわそわと

問三

線①「博士は釈然としなかった」とありますが、どんなことについて「釈然としなかった」のですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 福ちゃんが質問にきちんと答えない理由
イ 福ちゃんがサンペイ君を目の敵にする理由
ウ 福ちゃんに言われたことにみんなが従っている理由

エ 福ちゃんが自分のことを無視する理由

問四

——線②「こんな不合理なことを福ちゃんに言われたからといって従っている連中」とありますが、「連中」は福ちゃんに従ってどんなことをしたのですか。文中から十五字で書きぬきなさい。

問五

□Cにあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 複雑な気持ち イ 大きな気持ち
ウ 楽しい気持ち エ 腹立^{はらだ}たしい気持ち

問六

文中から、博士とサンペイ君の親密^{しんみつ}さが増し、博士がサンペイ君の家をしばしば訪^{たず}ねるようになったことが読み取れる一文をさがし、その初めの七字を書きぬきなさい。

問七

博士はどのような人物としてえがかれていますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 不合理なことに負けず、自分の思いをつらぬこうとする人物
イ 自分をごまかしてでも、みんなと仲よくしようとする人物
ウ つい余計なことを言って、人の反感を買ってしまう人物
エ 自分の考えが定まらず、気持ちがふらふらしている人物

第十六講・文学的文章 ⑩



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

新しい学級委員長の小林さんは、博士とサンペイ君がのけ者にされていると学活で訴えたが、サンペイ君はそれを否定した。放課後、福ちゃんはサンペイ君に真意を問いつめたが、きみとはかわりたくないのだと言われる。福ちゃんはその場を立ち去るが、博士はその後を追いかけた。

「サンペイ君はすごいんだ。福ちゃんが仲良くしてくれたら、みんなサンペイ君のこと、よく分かると思うのに。本当にすごいし、おもしろいんだから。福ちゃんが言っていた、ほら話だって、本当に本当なんだから」

「本当だったら、すごいのか。おれらには関係のな

5

い話だべ。あいつも、あいつのおじさんも、勝手に月でも火星でも行けばいいべ」

博士には福ちゃんがなくて、そんなにサンペイ君を目的にするのか分からなかった。先生だって夢を見ることはいいことだって言うじゃないか。サンペイ君が大きなことを言ったりするのって、そんなに悪いことなんだろうか。

①「福ちゃん、おかしいよ。福ちゃんつてもつと分け隔てないんだと思ってた。でも、今はみんな福ちゃんが怖いんだよ。だから、ぼくたちに話しかけられない。福ちゃんはそんなんでいいの？」

福ちゃんがはっとした顔で、博士を見た。

「ハカセにそんなこと言われるとなあ……」と小さく呟いた。「おれ、頭、悪いし、おやじは家を継げつて言うし、たぶん高校出たらそうなるんだべさ。けど、ナカタは勉強すりゃあ、一番になれるやつだ。」

20

15

10

でも、やらん。それで、一人でスカしてる」

「福ちゃんは、クラスの人気者じゃないか。みんな福ちゃんが好きだし、いるだけでぱっと明るくなる。サンペイ君のこと、気にすることなんてないんだよ」

「そうだべか……」

② 福ちゃんは唇を噛んでいた。博士には分からなかったけど、福ちゃんにとっては大きなことなんだというのが伝わってきた。

サンペイ君はもう帰ってしまっていたので、博士はサンペイ君の家に向かった。

離れの部屋にはサンペイ君はいなかった。たぶん川に行ったのだと思って博士はいつものポイント*₁に向かった。はたして、サンペイ君は一人で釣り糸を垂_たれていた。

「やあ、ハカセ君」サンペイ君は後ろ向きのまま言った。

「福ちゃんと仲直りした方がいいと思うよ」博士はいきなり核心_{*2}に切り込_こんだ。

「やつはぼくが気に入らないのだよ。瓢箪池_{ひょうたんいけ}のヌシ

40

35

30

25

のことだって、やつは信じようとしなからね。こっ

ちはおじさんが釣りかけて、糸を切られるのをこの目で見ているのだ。ヌシはぜったいにいるのだ」

「ぼくはクラスのみんなにサンペイ君のこと、もつと知ってほしいんだよ。こんなにすごいし、おもしろいのに、みんな全然知らないんだ」

「そんなことはいいのだよ、ハカセ君。ぼくたちは遠くにいくのだから、小さな教室にかかわることはないのだ」

「でも、みんなと仲良くやれた方が、楽しいじゃないか。サンペイ君はおかしい。なんか逃_にげてるみたいだ」

言ってしまった後で、博士ははつとして口に手を当てた。

サンペイ君の肩_{かた}が震_{ふる}えていた。水面の浮_うきにアタリが来ているのに、竿_{さお}を動かそうともしない。

博士は話しかけられずに、じつと背中_{せなか}を見ていた。しばらくしてサンペイ君が大きく息を吸_すい込んだ。

③ 背中を向けたまま、「ハカセ君、帰ってくれたま

60

55

50

45

えよ」と威圧的に言った。*3 いあつてき

博士はそのまま 家路についた。

(川端裕人『かわばたひろと 今ここにいるぼくらは』)

*1 ポイント⇨地点。

*2 核心⇨物事を中心となる部分。

*3 威圧的⇨相手をおそれさせ、おさえつける様子。

問

——線①「福ちゃん、おかしいよ。……福ちゃんはそんなんでいいの？」とありますが、このとき博士はどんな気持ちで福ちゃんにことはをかけていますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 福ちゃんがサンペイ君を目の敵にする理由がどうしてもわからず、福ちゃんの態度を非難する気持ち

イ サンペイ君の夢に対して福ちゃんがどう思っているかがわからず、福ちゃんの考えを知りたいと思う気持ち

ウ サンペイ君にだけ態度を変える福ちゃんが本当はサンペイ君のことをどう思っているのかをさぐるという気持ち

エ 福ちゃんが必要以上にサンペイ君のことを気にしているので、そんなに気にすることはないとほめます気持ち



問二

線②「福ちゃんは唇を噛んでいた」とあ

りますが、なぜ福ちゃんは「唇を噛ん」だったので
すか。最も適当なものを次のうちから選び、記
号で答えなさい。

ア 自分を気づつかう博士に負けた気がしてくや
しかったから。

イ サンペイ君を必要以上に意識していたこと
に気づいたから。

ウ 自分を気づつかってくれる博士のやさしさが
うれしかったから。

エ サンペイ君を目の敵にするのはまちがいだ
とわかったから。



問三

線③「背中を向けたまま、『ハカセ君、帰っ

てくれたまえよ』と威圧的に言った」ときのサ
ンペイ君の気持ちとして最も適当なものを次の
うちから選び、記号で答えなさい。

ア 無神経な発言をされたことに対して激しく
いかる気持ち

イ あまりにあたりまえのことを言う博士を軽
蔑する気持ち

ウ 痛いところをつかれた動ようをかくそうと
強がる気持ち

エ 博士の言っていることはまちがいだと強く
反発する気持ち



問四

☐ にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア とぼとぼ イ てくてくと
ウ どたどたと エ さばさばと

☐

問五

この文章の表現の特色について述べたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 登場人物の行動を写実的な表現で冷静に追っている。
イ 会話を多用して登場人物の心の動きをえがき出している。

ウ 場面の情景が、効果的な比喩であげやかに映し出されている。

エ 短文の積み重ねで、スピード感あふれる展開になっている。

☐

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

博士^{ひろし}は一人きりだった。

相変わらずクラスのみんなとは話せなかったし、サンペイ君も博士と視線^{しせん}が合うのを避^さけていた。だから、学校では一人きり。以前にもまして、たくさんの本を読み、いろいろ考えたり、煮詰^{につ}まったり。ぼくがいるべき場所はここじゃない。そんな感覚がよみがえってきて、お腹^{なか}の中をぐるぐると巡^{めぐ}っていた。

それでも、なんとか耐^たえられた。一人でいることに耐えることって、ひよっとするとサンペイ君が博士に教えてくれたちよっとした技術かもしれない。博士は家の近くの川で釣^つりをするのを覚えて、自宅^{じたく}の水槽^{すいそう}でタナゴも飼^かい始めた。友達がいなくても、本と釣り竿^{ざお}があればそれなりに満ち足りていられたのだ。

釣りっていい。辛い^{つら}ことを忘れ^{わす}られる。

15

10

5

どうして釣りを始めたのか聞かれたら、たぶん博士はそう答えただろう。

冬だから寒くて、博士は鼻水をたっぷり垂^たらしながらも、川に出るのはやめなかった。

①博士はこんな日が、ずっと続くのを覚悟^{かくご}していた。中学ではさすがにそんなことないだろうけど、小学校の間はこのままなのだ。覚悟すれば、しっかりとした気分^{きふん}でいられた。

でも、変化^{へんげん}というのはいつも突然^{とつぜん}だ。二月十四日、バレンタインデーの朝、いつものように登校して教科書を机^{つくえ}に移そうとすると、中からごそりと小さな包みが二つ、三つ落ちた。

最初はなんのことか分からなかったのだが、すぐに理解して博士はA。きっと耳たぶの先まで赤かったに違^{ちが}いない。

チョココレートなのだ。博士は自慢^{じまん}じゃないけれど、これまでもらったことがなかった。それが今年に限って、いくつももらえるなんて。机の中に手を入れてさぐってみると、最初に落ちたやつだけではな

35

30

25

20

く十個以上はありそうだった。

紙の感触が指先にあつて、博士はそれを引っ張り出した。封筒だった。

〈大窪君と中田君はともがんばっていると思います。そんなけいします。女子のみんなからチョコレートをくれます〉

視線を上げると、小林委員長がこっちを見て、リズミたいな大きな前歯を出して笑っていた。

② そういうことだったのか。女子全員が博士のことを励ましてくれたのだった。

「今年は福ちゃんにはなしだって。去年は十個以上もらっただろ。シヨック大きいぜ」

斜め後ろの男子が耳打ちしてきた。えっ？ と耳を疑った。博士にわざわざ話しかけてきたのだ。福ちゃんを見ると確かにうなだれた感じだったけど、それ以上に博士は「B」という事実戸惑った。

「あたしたちは仲間はずれをつくるような男子にはチョコあげないからね！」小林委員長が大声で言うど、どっと笑いが起きた。

50

45

40

③

クラスを成り立たせている力学がコトリと小さな音を立てて組み替わる。その日から、誰も博士に話しかけるのをためらわなかったし、福ちゃんも謝りこそしなかったけれど、また以前のように博士を扱うようになった。

すべては元通りだった。博士が、サンペイ君と親しくなる前とまったく同じ。サンペイ君は、誰とも話をせず、授業中もただずっと窓の外を見ていた。

博士はそのごわごわした後頭部を時々見ては、胸がチクリと痛んだ。

(川端裕人『今ここにいるぼくらは』)

*タナゴリフナに似た、コイ科の淡水魚。

55

60

問一

——線①「博士はこんな日が、ずっと続くのを覚悟していた」とありますが、「こんな日」とは、博士がどんな状態にいる日のことですか。文中から四字で書きぬきなさい。

問二

Aにあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 顔からさーっと血の気がひいた
- イ ほーっと大きく息をはいた
- ウ 顔がかーっと熱くなった
- エ へーっと心の底から感心した

--

問三

——線②「そういうことだったのか」とありますが、博士はどういうことがわかったのですか。「仲間はずれ」「女子全員」「チョコレート」ということばを使って説明しなさい。

--

問四

Bにあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 話しかけられた
- イ チョコをもらった
- ウ 謝られた
- エ 福ちゃんにチョコがなかった

--

問五

——線③「クラスを成り立たせている力学が

コトリと小さな音を立てて組み替わる」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 女子全員が福ちゃんをきらったことで、だれも福ちゃんを相手にしないようになったということ

イ 女子全員が認めたことで、クラスが中心が福ちゃんから博士とサンペイ君に変わったということ

ウ 女子全員が抗議の意思を示したことで、みんなが福ちゃんに従わなくてもいいようになったということ

エ 女子全員が博士にチョコをおくったことで、みんなの注目が博士に集まるようになったということ



問六

——線④「胸がチクリと痛んだ」とあります

が、このときの博士の気持ちを原因もふくめてかんたんに説明しなさい。

第十七講・詩



◇詩とは

詩とは、さまざまなきごとや自然の風景など、作者が見たことや感動したことを、短いことばで表現した文学です。

◇詩の重要事項^{じこうじこう}

① 詩の分類

○形式から

・定型詩…音数や行数に一定の決まりのあるものの。

・自由詩…音数や行数に決まりのないもの。

○用語から

・口語詩…ふだん話をするときのことばで書かれたもの。

・文語詩…昔の文章のことばで書かれたもの。

○内容から

・叙情詩^{じょじょうし}…作者の気持ちや感情をうたったもの。

・叙景詩…景色や自然をうたったもの。

・叙事詩…物語や事件のあらすじをうたったものの。

*形式と用語をあわせて「口語自由詩」「文語定型詩」などといいます。現代詩の多くは口語自由詩で、内容的には叙情詩です。

② 連について

何行かがひとまとまりになって連を作ります。連は、ふつうの文章の段落^{だんらく}にあたるもので、連と連の間は、ふつう一行あいています。

③ 表現技法

短いことばで感動を表現するために、さまざまなか表現技法が用いられます。

○直喩^{ちよく}…「うようだ」などのことばを使つてたとえる。

○例 もみじのような手

○隠喩…「うようだ」などのことばを使わずに
たとえる。

○例 海は地球のお母さん

○擬人法…人以外のものを人のように表現する。

○例 風がわたしにささやいた

○対句法…調子や内容が対になる句や行を並べ
る。

○例 野に花がさく／山に若葉が芽ぶく

○体言止め…文末を体言（名詞）で止めて、イ
メージを広げる。

○例 寄せては返す波

○反復法…同じ語句をくり返す。

○例 さあ旅立とう さあ旅立とう

○倒置法…ことばの順序をふつうとは逆にし
て、強調する。

○例 歩き続けよう 夢に向かって

○省略法…ことばを省いて余いんをもたせ、印
象を強める。

○例 なみだをこらえて――

○呼びかけ…呼びかけて、そのものに対する親
しみを表現する。

○例 おおい雲よ ぼくはここだよ

一 題目 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

少年よ

田代しゅうじ

少年よ

ボールが 君のグローブを とびだしたのは
おれのせいじゃない

グローブが悪かったんだ なんていうより

くちびるをかめ

もっとくちびるをつよくかむがよい

いまにも

あふれそうな涙を なみだ ぐっとおさえて

くちびるをかんている

君が好きだ

少年よ

三塁は さんるい 君のものだ

エラーがかさなつて

ベンチにひっこまされたからといって

ひとをうらむな

ひとの を 待つな

少年よ

ベンチでくちびるをかんている

君が好きだ

ベンチにひっこんでいても いつも

ボールにむかって 心はとびついていけ

君は三塁をまもって

走り 捕球し ほきゅう 投げる

少年よ

明日にむかって

ボールを追え

問一 この詩を用語、形式から分類すると、次のど

れにあたりますか。記号で答えなさい。

ア 口語自由詩 イ 口語定型詩

ウ 文語自由詩 エ 文語定型詩

問二 この詩は全部で何連からできていますか。

漢数字で答えなさい。

連

問三 にあてはまることばを詩の中から三字

で書きぬきなさい。

問四 作者は少年にどんなことを言おうとしている

のですか。最も適当なものを次のうちから選び、
記号で答えなさい。

ア 野球は集団競技なので、自分がうまくい
かないからといって泣いたりせず、チームのこ
とを第一に考えることが大切である。

イ 失敗したからといって落ちこんだりせず、
失敗したことは早く^{わす}忘れて、明日にむかって
歩んでいくことが大切である。

ウ 失敗を^{みと}認めてその責任を自分で引き受け、
くじけずにがんばっていこうという心構えを
もつことが大切である。

エ 人は失敗を重ねてこそ成長できるのだから、
失敗したことをチャンスだと思って前進
することが大切である。

二題目

次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

空

菊池敏子
きくちとしこ

*1 ほんなにもほがらかな空の どこに

*1 綻びがあるというのだろう

いそいで繕いにゆかなくては――

① とてもいうふう

② 白い糸をつけた 銀の針のかたちして

ヒコークが飛んでゆく

空は きょう

わたしに気づかせたかったのだ

*2 シンプルな演出で

思いもかけぬよい光景を目撃させ

どれほどのあいだ

わたしがあくせく

空を忘れて過ごしていたかを

③

のどが渴きそうな 空の

まっさおな上機嫌に

かんせん 感染してしまったらしい

わたしの いちにち

*1 綻びは糸でぬった部分がほどこたところ。ほ

つれ。

*2 シンプルな単純な様子。簡単。

問一

この詩はいくつの連（まとまり）からできていますか。漢数字で答えなさい。

連

問二

線①「白い糸」、②「銀の針」は、それぞれ何をたとえていると考えられますか。漢字で書きなさい。

①

②

問三

線③「のどが渴きそうな……感染してしまつたらしい」とありますが、それまで作者はどうだったのですか。次の□□にあてはまることを詩の中から書きぬきなさい。

過ごしていた。

問四

この詩で使われている表現技法を次のうちからすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 擬人法 イ 倒置法 ウ 反復法
 エ 体言止め オ 対句法

問五

この詩からわかる作者の思いを説明したものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア いつもとちがった空の様子を見て心配になっている。
 イ 目を見はるようなきれいな空の様子を見ておどろいている。
 ウ 思いがけず気持ちのよい空の様子を見てうれしくなっている。
 エ 何もなやみのなさそうなくっきりした空の様子を見てうらやましく思っている。

三題目

次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

雑草

おおぜきまつさぶろう
大関松三郎

おれは雑草になりたくないな

だれからもきらわれ

芽をだしても すぐ しまう

やっとなっぱのかげにかくれて

大きくなったと思っても

ちよこつと こっそり咲かせた花がみつかれば

すぐ「こいつめ」と しまう

だれからもきらわれ

だれからもにくまれ

* たいひの山につみこまれて くさっていく

① おれは ② こんな雑草になりたくないな

③ しかし ④ どこから種がとんでくるんか

取っても 取っても

よくもまあ たえないものだ

かわいがられている野菜なんかより

14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

④ よっぽど丈夫な根っこをはって生えてくる雑草

強い雑草

強くて にくまれもんの雑草

* たいひにわらや落ち葉などを積み重ねてくさら

せたもの。肥料として使う。

17 16 15

問一

この詩を、用語と形式のうえから分類したものととしてよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 文語定型詩 イ 口語定型詩
ウ 文語自由詩 エ 口語自由詩

問二

詩の中にある には同じことばが入ります。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア ひっこぬかれて イ 大切にされて
ウ ほっておかれて エ 笑われて

問三

線①「こんな」の指している部分はどこからどこまでですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

問四

線②「しかし」より前とあとでは雑草に対する「おれ」の心情はどのように変化していますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 前でも雑草に対して悪い印象をもっているが、あとではさらに悪い印象をもつようになっていく。
イ 前では雑草に対して悪い印象をもっているが、あとでは雑草のしぶとさに気づき、少し見直している。

- ウ 前では雑草に対して良い印象をもっているが、あとでは野菜と比べておとると批判する

気持ちになっている。

工 前では雑草に対して良い印象をもっているが、あとでは雑草をきらうようになっていく。

問五

——線③・④に使われている表現技法を次の

うちからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法

イ 直喩法

ウ 倒置法

エ 体言止め

オ 反復法

③

④

第十八講・短歌・俳句

◇短歌とは

さまざまな思いや感動を五・七・五・七・七の五句三十一音で表現したものを短歌といいます。「三十一文字」ともいわれます。

◇短歌の重要事項

① 形式

五(初句)・七(二句)・五(三句)・七(四句)・七(結句)の三十一音が基本の形式です。初めの五・七・五を「上の句」、あとの七・七を「下の句」といいます。

② 句切れ

一首(短歌の数え方)の中で意味が大きく切れるところを句切れといいます。切れる位置によって、「初句切れ」「二句切れ」「三句切れ」「四句切れ」「句切れなし」といいます。

例

街をゆき子供こどもの傍そばを通る時

蜜柑みかんの香かせり／冬がまた来る

四句切れ↑
木下利玄きのしたりげん

③

表現技法

比喻・体言止め・倒置法など、詩と同じ技法

や枕詞まくらことばが使われます。

○枕詞：特定のことばの上にそえて、ことばの

調子を整えます。

例

ひさかたの光のどけき春の日に

しづ心こころなく花のちるらむ(ん)

紀友則きのとものり

「ひさかたの」は「光」の枕詞

(枕詞の例)

たらちねの母(お)(親)

あをによし(お)↓奈良



◇俳句とは

さまざまな思いや感動を五・七・五の三句十七音で表現したものを俳句といいます。世界で最も短い詩といわれています。

◇俳句の重要事項

① 形式

五（初句）・七（二句）・五（結句）の十七音が基本の形式です。短歌・俳句ともに、基本の形式より音数が多いものを「字余り」、少ないものを「字足らず」といいます。

② 季語

俳句には、季語（季節を示すことば）を一つ入れるという決まりがあります。

例 春：菜の花・うぐいす・ひなあられ・入学

夏：あじさい・せみ・いちご・プール

秋：コスモス・ばった・柿・運動会

冬：さざんか・ふぐ・大根・スケート

③ 切れ字・句切れ

「ぞ・や・かな・けり」などを切れ字といい、

感動の中心や句の切れ目を示します。

例 荒海や／佐渡に横たふ天河

↓初句切れ

松尾芭蕉

一 題目 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

A 海恋し潮の遠鳴りかぞへては

少女となりし父母の家

与謝野晶子

B 向日葵は金の油を身にあびて

ゆらりと高し日のちひささよ

前田夕暮

問一 Aの短歌に使われている表現技法を次のうち

から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 体言止め

ウ 反復法 エ 倒置法

問二 Aの短歌をよんだとき、作者はどこにいたと

考えられますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 海岸

イ 潮の遠鳴りが聞こえる所

ウ 父母の家

エ 故郷からはなれた所

問三 線①「金の油」は何をたとえたものですか。

問四 線②「ゆらりと高し」とありますが、ゆ

らりと高いものは何ですか。

二 題目 次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

A 閑か^{しず}さや岩にしみ入る^{せみ}蟬の声

まつお ばしろう
松尾芭蕉

B 柿食^{かき}へば鐘^{(え)かね}が鳴るなり法隆寺

まさおか しき
正岡子規

問一 A・Bの俳句の季語と季節を、それぞれ書き

なさい。

A 季語

季節

B 季語

季節

問二 A・Bの俳句について説明したものとして最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記

号で答えなさい。

ア 古都の静かなおもむきが感じられる。

イ 季節の移り変わりをうたっている。

ウ 二つの色の対照が印象的で美しい。

エ 音を表現することによって、静けさをきわ立たせている。

A

B

三題目

次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

A いっしかに春の名残となりけり

昆布干場のたんぽぽの花

北原白秋

B ①金色のちひさき鳥のかたちして

②いてふ散るなり夕日の岡に

与謝野晶子

C たらちねの母が釣りたる青蚊帳を

*1すがしといねつたるみたれども

長塚節

D くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の

針やはらかに春雨のふる

正岡子規

E

ふるさとの訛なつかし

停車場の人ごみの中に

④*3それを聴きにゆく

石川啄木

*1青蚊帳に蚊にさされないように、つりさげて、

ねどこをおおうもの。

*2すがしといねつゝすがすがしいと言ってねた。

*3それ。

問一

B・Cの短歌に共通して使われている表現技法として最も適当なものを次のうちから選び、

記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 体言止め

ウ 倒置法 エ 反復法

問二 AとEの短歌のうち、字余りの短歌を一つ選

び、記号で答えなさい。

問三 Cの短歌の中から、枕詞まくらことばとその枕詞がかかる

ことばを書きぬきなさい。

枕詞

枕詞がかかる

ことば

問四 Aの短歌は何句切れですか。

句切れ

問五 Aの短歌でよまれている作者の心情として最

も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 植物のたくましさにおどろき、感心している。

イ 遠くはなれた故郷こきょうをなつかしんでいる。

ウ 春が来た喜びで心がはずんでいる。

エ 春が過ぎていくのをしみじみと感じている。

問六 Bの短歌によまれている季節はいつですか。

最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 春 イ 夏
ウ 秋 エ 冬

問七 — 線① 「金色のちひさき鳥」とありますが、

何をこのように表現したのですか。

--

問八 — 線② 「たるみたれども」とありますが、

何がたるんでいるのですか。

--

問九 — 線③ 「やはらかに」とありますが、薔薇

の芽の針のほかにやわらかいものとしてこの短歌で歌われているものは何ですか。

--

問十 — 線④ 「そ」は何を指していますか。短歌

の中から六字で書きぬきなさい。

四題目 次のA～Dの短歌は、さいとうもきち斎藤茂吉の連作（連

続して作られた作品）です。これを読んで、作られた順に記号を並べなさい。

A *₁ みちのくの母のいのちを

一目見ん 一目みんとぞただにいそげる

B のど赤き玄鳥*₂つばくろふたつ屋梁*₃はりにいて

たらちねの母は死にたまふ（もう）なり

C みちのくに病む母上にいささかの

胡瓜きゅうりを送る障りさわあらずな

D 死に近き母にそひ寝（い）ねのしんしんと

遠田（わず）のかはづ天に聞こゆる

*1 みちのく＝東北地方。作者の故郷は山形県。

*2 玄鳥＝つばめ。

*3 屋梁＝屋根の重みを支えるために、横にわたした

太い柱。

↓

↓

↓

五題目

次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

A 名月や池をめぐりて夜もすがら

まつお ばしろう
松尾芭蕉

B 菜の花や月は東に日は西に

よさぶ せん
与謝蕪村

C ちる芒寒すすきくなるのが目にみゆる

こばし いっさ
小林一茶

D 朝顔あさがおにつるべ取られてもらひ水みづ

かがの ちよ じよ
加賀千代女

*1夜もすがらひとばん一晩じゆう。

*2つるべいど井戸から水をくみ上げるおけ。

問一

A～Dの俳句の(1)季語と(2)季節を、それぞれ書きなさい。

A (1)	B (1)	C (1)	D (1)
(2)	(2)	(2)	(2)

問二

Aの俳句の中から、切れ字を書きぬきなさい。

問三

Bの俳句がよまれた時間帯として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 日の出前 イ 日の出ごろ
ウ 正午ごろ エ 夕方

問四

AとDの俳句の中から対句が使われているものを選び、記号で答えなさい。

問五

次のそれぞれの説明に合う俳句をAとDから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 広々とした光景が絵のようにえがかれていて、黄色と赤の色の対比が印象的で美しい。
- (2) 目の前の情景から季節の変化を感じ取っている。

- (3) 日常のできごとをえがいた中に、植物に対するおもいやりが感じられる。

- (4) 月の美しさに夢中になり、時のたつのも忘れてしまったことがよまれている。

(1)

(2)

(3)

(4)

問六

松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶が活躍した時代を次のうちから選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|------|---|------|
| ア | 平安時代 | イ | 鎌倉時代 |
| ウ | 江戸時代 | エ | 明治時代 |

第十九講・品詞①



●ことばの単位

ことばの決まりを学ぶうえで、まず知っておかなければならないのは「ことばの単位」です。ことばの性質や組み立て方などを理解するには、ことばを特定の単位で区切って考えることが重要です。ことばの単位は、大きいほうから順に次の五つがあります。

- ① 文章…書き手の伝えたい内容をことばで表現したもの全体。話したことばの場合、談話・スピーチなどといいます。
- ② 段落…文章を、内容の大きなまとまりごとに区切ったもの。段落には次の二つがあります。
 - ・形式段落…段落の始まりは一字下げ、終わりは改行します。
 - ・意味段落…いくつかの形式段落を、内容の上からまとめたもの。

- ③ 文…まとまった内容を表すひと続きのこと

ば。通常、終わりには「。」を付けます。

例 ぼくたちの家は、あの山のうらにあるので

す。…一つの文

- ④ 文節…意味がとれるはんいで最も小さく区

切った一区切り。文節の切れ目には、「サ」「ネ」

「ヨ」などのことばをはさむことができます。

例 ぼくたちの／家は、／あの／山の／

うらに／あるのです。

- ⑤ 単語…文節をさらに小さく区切った、意味の

あることばとして成り立つ最小の単位。

例 ぼく／たち／の／家／は、／あの／山／の／

うら／に／ある／の／です。

① 次の各文に斜線(しやせん)を引いて、文節に区切りなさい。

(1) ここに荷物を置いて歩きましたよう。

(2) 何年たっても忘(わす)れるはずがない。

② 次の各文に斜線(しやせん)を引いて、単語に区切りなさい。

(1) 今日こそは敵の船を見つけるのだ。

(2) どうしてあなたは公園に來なかつたの。

●品詞とは

単語を性質によって分類したものを品詞といいます。品詞には次の十品詞があります。

名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・
接続詞・感動詞・助動詞・助詞

●名詞

名詞は、ものごとの名前を表したり、指し示したりする単語で、「は」や「が」が付いて主語になります。名詞はさらに次の五つに分類することができます。

① 普通名詞：ある種類のものごとをまとめて呼ぶのに使う名詞。

例 花 学校 緑

② 固有名詞：ある一つのものごとに対してだけ使う名詞。

例 二宮金次郎 富士山

③ 数詞：数や順序を表す名詞。

例 一台 二足 いくつ

④ 形式名詞：具体的な内容をもたず、必ず他の

単語に修飾される形で使われる名詞。

例 何もいいことがない。

⑤ 代名詞：名前を呼ぶ代わりに、指し示す名詞。

例 これ そこ あなた

●動詞

動詞は、「どうする」や「ある／いる」などを表す単語で、言い切りの形がウ段の音で終わります。また、あとに続くことばによって形が変わります。これを活用といいます。

例 走る ここでは走らない。

必死で走りました。

さっそうと走る。

速く走ることができません。

とにかく走ればいいのです。

どんどん走れ。

1 次の文中から名詞をさがし、すべて書きぬきなさい。

それは一ぴきの小さな虫だった。日本海からの強い風を受けて、今にも飛ばされそうだ。よくこんなところにすんでいるものだ。

2 次の——線の名詞は、あとのどれにあたりますか。記号で答えなさい。

- (1) 寒いと思ったら、雪が降りだしたようだ。
 (2) 気が付いたときに言ってください。
 (3) このクラスには三十人の生徒がいます。

- (4) 姉は九州に旅行中です。
 (5) それはぼくの教科書です。
 (6) 君とはよく遊んだものだ。
 (7) 君には何度助けられたか分からない。
 (8) いったいどっちに行けばいいのだろう。
 (9) ベートーベンのピアノ曲が流れている。
 (10) 昨日、友達の家遊びにいった。

ア 普通名詞 イ 固有名詞 ウ 数詞
 エ 形式名詞 オ 代名詞

(9)	(5)	(1)
<div></div>	<div></div>	<div></div>
(10)	(6)	(2)
<div></div>	<div></div>	<div></div>
	(7)	(3)
	<div></div>	<div></div>
	(8)	(4)
	<div></div>	<div></div>

3

次の文中から動詞をさがし、そのままの形で、
べて書きぬきなさい。

ゆうべ、ぼくたちが勉強していたとき、いなず
まが光った。弟はあわてておなかに手を当ててお
へそをかくした。

4

次の——線部の動詞の言い切りの形を答えなさい。

(1) 早く服を着なさい。

(2) よく観察すれば気がつくはずだ。

(3) ふたを開けられないようにしよう。

(4) どこかがまちがっていませんか。

5 次の（ ）内の動詞を、文に合うように活用

させて、ひらがなで書きなさい。

例 何が何でも（勝つ）たい。 ↓ 勝ち

(1) たくさんの本を（読む）だ。

(2) こまがなかなかうまく（回る）ないんだ。

(3) ライトを上（向ける）ば、まぶしくない。

(4) もう何が（起きる）てもおどろかない。

(5) 宿題の話はだれかに（聞く）たかい。

(6) だれかがこっちへ（来る）ようとしている。

(7) 向こうから馬車が（来る）ました。

第二十講・品詞②

●形容詞
けいようし

形容詞は、ものごとの性質や状態を表す単語で、言い切りの形が「い」で終わります。また、活用があります。（命令形はありません。）

例 明るい 明る^くろうと暗^くろうと構^はわない。

思^ったより明^るか^った。

急^ぎに明^るく^なり^まし^た。

窓^{まど}の外^は明^るい。

外^が明^るい^うち^に帰^ってお^いで。

明^るければ明^るい^ほど^よい。

●形容動詞

形容動詞は、ものごとの性質や状態を表す単語で、言い切りの形が「だ」または「です」で終わります。また、活用があります。（命令形はありません。）

例 元気だ 父と母は元^げ気^だら^うか。

ず^っと元^げ気^だっ^た。

元^げ気^でない^ときはあ^りま^せん。

今日^も元^げ気^に走^り回^ってい^ます。

び^っくりする^ほど元^げ気^だ。

元^げ気^な姿^{すがた}に安^ん心^する。

みんなが元^げ気^なら^ばそ^れで^いい。

1 次の――線部の形容詞の言い切りの形を答えなさい。

(1) ひもがきつければ、ゆるめてください。

(2) それでまぶしくないかい。

(3) 一体どうするのが正しかったのか。

(4) 夢が大きいのはいいことだ。

2 次の□にひらがなを入れて、文を完成させなさい。

(1) このあたりは空気が悪□。

(2) 君が来てくれてうれし□。たなあ。

(3) いつもこんなに楽し□。ばいいのにね。

(4) あなたほど強□。人はいない。

(5) だんだんつら□。なってきた。

(6) 母と別れて、さぞやさびし□。う。

3

次の文中から形容詞をさがし、そのままの形で
すべて書きぬきなさい。

少年は暖かい服がほしかったので、すばやく手
に取りました。

4

次の——線部の形容動詞の言い切りの形を答え
なさい。

(1) 波がおだやかなら、船を出そう。

(2) まじめな顔でじょうだんを言う。

(3) あのドレスはすてきだったわね。

(4) いっまでも大切にしてください。

5 次の□にひらがなを入れて、文を完成させなさい。

(1) それはちょっと大きき□う。

(2) 何だか変□天気だなあ。

(3) この駅は映画^{えい}に使われて有名□なりまし
た。

(4) 今いるところが安全□ば、そのまま
いなさい。

(5) おじいさんは正直□たので、宝^{たから}を返
しました。

(6) この荷物を一人で運ぶのは大変□ぞ。

(7) 子供^{こども}のことが心配□たまらない。

6 次の文中から形容動詞をさがし、そのままの形
ですべて書きぬきなさい。

大きな門が開くと、派手なトランペットの音が
高らかに鳴りひびき、それまで静かだった広場は
急にざわざわし始めました。

●副詞ふくし

副詞は、おもに動詞・形容詞・形容動詞を修飾する単語です。

例 さっと ついに もっと

副詞の中には、あとに必ず決まった言い方の来るものがあります。組み合わせを覚えておきましょう。

(呼応の副詞)
こおう

例 まるでお月様のように円い。

●連体詞

連体詞は、名詞を修飾する単語です。

例 ある どの 大きな

●接続詞

接続詞は、文と文、文節と文節などをつなぐ働きをする単語です。接続詞には次の七種類があります。

① 順接…前のことがらが原因・理由となることをあとで述べる。

例 だから したがって すると

② 逆接…前のことがらとは反対のことをあとで

述べる。

例 しかし ところが けれども

③ 累加…前のことがらにあとのことがらを付け加える。

例 それに そのうえ しかも

④ 並立…前とあとのことがらを並べる。

例 および また

⑤ 対比・選択…前とあとのことがらを比べたり、どちらかを選んだりする。

例 あるいは または それとも

⑥ 説明…前のことがらについてあとで説明する。

例 つまり

⑦ 転換…話題を変える。

例 さて ところで

●感動詞

感動詞は、感動、呼びかけ、あいさつなどを表す単語です。

例 おや おい こんにちは

1 次の——線部の副詞が修飾している文節を書きなさい。

(1) ご飯がすっかり終わってからゆっくり話そう。

(2) 今やらないと、より大変なことになりますよ。

(3) いつもやさしいおばさんが今日はおこっている。

(4) とても急な坂道を登らないと行けません。

2 次の——線部に注意して、□にあてはまるひらがなを書きなさい。

(1) もし百点を取っ□、母はびっくりするだろうか。

るだろうか。

(2) よもや忘れたわけではある□な。

(3) どうかお天気になります□。

(4) ケーキは、おそらく妹が食べたの□。

(5) なぜこんなところにいるかあるのです□。

3 次の□にあてはまる副詞をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) このことは□だれにも言わないように。

(2) 花びらが□雪のように見えました。

(3) □見つかってしまっても、あわてるな。

(4) 来週の試合は、□見に来てください。

(5) こんな雨だから、□出発しないだろう。

(6) 危^{あぶ}なっかしくて、□見ていられない。

ア ちようど イ たとえ ウ まさか
エ とても オ けっして カ ぜひ

4 次の文中から連体詞をすべて書きぬきなさい。

その日、いろんな人がピエロとおしゃべりをしたが、ピエロの小さな悲しみに気付いたのはわずか一人だった。

5 次の□にあてはまる接続詞をあとから選
び、記号で答えなさい。

(1) やりたくない。□で
きるはずがないから
だ。

(2) 右手の骨^{ほね}を折った。□左足
までねんざす
るとは。

(3) やっと終わったね。□ど
うやって帰るん
だい。

(4) 急いで行った。□だ
れもいなかった。

(5) ぼくの趣味^{しゅみ}は、自転
車で遠出すること、
□サイクリングだ。

(6) おなかがすいた。□パ
ンを食べた。

(7) 車で行こうか。□電
車にしようか。

ア	つまり	イ	けれども
ウ	そこで	エ	それとも
オ	そのうえ	カ	なぜなら
キ	ところで		

6

次の文中から感動詞を書きぬきなさい。

(1) もしもし、お父さんはいらっしゃいますか。

(2) はい、ぼくが^{はんちょう}班長です。

(3) まあ、あなた一人でここに来たの。

(4) ねえ、君もいっしょに遊ばないかい。

第二十一講・品詞③

●助動詞^{じょどうし}

助動詞は、必ずほかの語に付いて意味をそえる単語で、活用があります。受け身・可能・断定・打ち消しなどさまざまな意味をそえます。

●せる・させる…使役^{しえき}

使役とは、自分がするのではなく、だれかに何かをさせることです。「せる」と「させる」は意味は同じですが、上に來ることばがちがいます。

例 ノートに字を書かせる。

馬に草を食べさせる。

●れる・られる…受け身・可能・自発・尊敬^{そんけい}

「れる」と「られる」は意味は同じですが、上に來ることばがちがいます。どの意味で使われているのかに注意が必要です。

① 受け身…だれかに何かをされる。

例 ねこに魚を食べられる。

② 可能…することができる。

例 どうしても助けられなかった。

③ 自発…自然にそうなる。

例 将来が思いやられる。

④ 尊敬…うやまいの気持ちを表す。

例 町長さんが話される。

※これと似ているものに、可能動詞があります。可能動詞とは「飛べる」のように、一語で可能の意味をふくむ動詞です。可能動詞は、「飛ばない」のように、「ナイ」に続く形がア段^{だん}の音で終わる動詞からだけ作ることができる動詞です。なので、「見れる」のような可能動詞はありません。この場合は「見る＋られる」で、「見られる」になります。

●らしい…推定^{すいてい}

推定とは、確かでないことをおしはかることです。

【例】今年の冬は暖^{あたた}かいらしい。

●う・よう…推量・意志・勧誘^{かんゆう}

「う」と「よう」は意味は同じですが、上に来ることばがちがいます。

① 推量…おしはかる。「らしい」よりあいまいです。

【例】たぶん雨が降^ふるだろう。

② 意志…するつもりである。

【例】明日はハンカチを忘れ^{わす}れずにもってこよう。

③ 勧誘…さそう。

【例】いっしょにデパートに買い物に行こう。

●たい・たがる…希望

「たい」と「たがる」はどちらも希望を意味しますが、だれが希望するのかがちがいます。自分の希望には「たい」を、ほかの人の希望には「たがる」を使います。

【例】ご飯が食べたい。

水を飲^のみたがつているようだ。

1

次の「 」に、「せる」または「させる」を文に合うように活用させて書き入れなさい。

- (1) 赤ん坊^{ぼう}にミルクを飲ま た。
- (2) この犬にぼうをとってこ こと
はできますか。
- (3) のどが痛い^{いた}ときに、無理に歌わ
ないでください。
- (4) いつも人を笑わ てばかりいる。
- (5) 自分で決め てもいいだろう。

2

次の――線部の「れる」「られる」の表す意味をあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 先生が来られる前に、そうじを済^すませておく。
☐
- (2) この図書館では、一度に五冊^{ごさつ}まで借りられま
す。
☐
- (3) その歌を聞くと、昔のことが思い出されてつ
らいのです。
☐
- (4) おばあさんに道をたずねられた。
☐

ア 受け身
イ 可能
ウ 自発
エ 尊敬

3 次のうち、に「らしい」を入れられるものをすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 明日は雨が降る。
 イ 明日は雨。
 ウ 明日は雨になり。
 エ 明日は雨が降ら。

4 次の――線部の「う」「よう」の表す意味をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) お母さんが聞いたら喜ぶだろうな。

(2) 今日のことはだまっていようね。

(3) 明日こそは早起きしよう。

- ア 推量 イ 意志 ウ 勧誘

5 次の「」に、「たい」または「たがる」を文に合うように活用させて書き入れなさい。

- (1) 妹はケーキを見るとすぐに食べ。
 (2) あなたとずっといっしょにいた。

● そうだ…伝聞・様態

- ① 伝聞…そのようにだれかから聞いた。

例 天気予報によると、午後から雨になるそう
だ。

- ② 様態…そのように見える。

例 この雲の様子からすると、じきに雨になり
そうだ。

● ようだ…推量・たとえ・例示

- ① 推量…おしはかる。

例 全員無事だったようだ。

- ② たとえ…似ているものにたとえる。

例 風がなく、湖面はまるで鏡のようだ。

- ③ 例示…例として挙げる。「ように」「ような」

の形でだけ使われます。

例 君のような立派な人に出会えてうれしい。

● た…過去・完了・存続

- ① 過去…以前あったことを示す。

例 ゆうべは楽しかった。

- ② 完了…終わったことを示す。

例 やつと仕事がかたづ
いた。

- ③ 存続…ある状態が続いている。

例 角をもった動物が好きだ。

● まい…打ち消しの推量・打ち消しの意志

「まい」は推量・意志の「う・よう」に打ち消し
の意味が加わったものと考えることができます。

- ① 打ち消しの推量…「ないだろう」という気持
ちを表す。

例 彼も今さらやめるとは言うまい。

- ② 打ち消しの意志…「しないようにしよう」と
いう気持ちを表す。

例 こんな失礼な店には二度と来るまい。

●ぬ・ない…打ち消し

「ぬ」と「ない」は意味は同じですが、「ぬ」は古
い言い方です。

例 いらぬことを言うな。

ここにはだれもいない。

●だ・です…断定

「だ」も「です」も断定の意味ですが、「です」は
ていねいな言い方です。断定とは、そうであると言
い切ることです。

例 君に会いに来たのだ。

これは本です。

1 次の――線の「そうだ」の表す意味をあとから
選び、記号で答えなさい。

(1) この大根は夕食のなべに使うそうだ。

☐

(2) 細く切ればサラダにも使えそうだ。

☐

(3) しっぱのところはからい そうだ。

☐

ア 様態 イ 伝聞

2 次の――線の「ようだ」の表す意味をあとから
選び、記号で答えなさい。

(1) 日本のような自然の豊かな国は多くはない。

☐

(2) 雪のように白いはだのおひめさま。

☐

(3) どこかで鳥が鳴いている ようだ。

☐

ア 推量 イ たとえ
ウ 例示

3 次の——線の「た」の表す意味をあとから選び、

記号で答えなさい。

(1) おばあさんがしわがれた声で言った。

☐

(2) あのころはまだ子供だった。

☐

(3) 学区内の地図ができた。

☐

ア 過去
イ 完了
ウ 存続

4 次の——線の「まい」の表す意味をあとから選

び、記号で答えなさい。

(1) 走っても八時には着けまい。

☐

(2) 君だけには負けまいと思ってがんばったんだ。

☐

(3) そう思い通りにはいくまい。

☐

ア 打ち消しの推量
イ 打ち消しの意志

5

次の「」に、「ない」を文に合うように活用させて書き入れなさい。

(1) そのかばんは、もう使わ「」なっ
た。

(2) 君が行か「」ば、だれが行くんだ
よ。

(3) 水が出「」たので、とても困った。

6

次の「」に、「だ」を文に合うように活用させて書き入れなさい。

(1) 君が赤組「」ば、白組だ。

(2) 明日も来るの「」ば、ついでに持っ
てきてください。

(3) このまますっとここに「」いるの「」
うか。

(4) これが問題の宝^{ほうせき}石「」
「」のです。

解答編

小学6年 国語 (応用)

第一講 文学的文章①

一 題目

問一 イ

問二 水干

問三 イ

問四 エ

問五 源流の道をたどる最後のチャンス

問六 イ

問七 ア

小6 国語 応用 テキスト 解答

一題目

問一 A イ

B ウ

問二 四樹の足が

問三 ウ

問四 最初の一滴

問五 ア

問六 まだ四樹 うが いい

問七 イ↓ア↓オ↓エ

二題目

問一 エ

問二 イ

問三 多摩川の最初の一滴

問四 山の斜面・土・水神社・水神

一 題目

問一 A エ

B イ

C ア

問二 肺の部分が大きい〔から〕

問三 1 まっすぐ後ろ

2 かえるみたい

3 深く沈んで

4 交互に

問四 肺

問五 下毛・密生して

問六 ④ ウ

⑤ オ

問七 寝場所・ここぞという場所

問八 イ

小6 国語 応用 テキスト 解答

一題目

問一 A イ

B ア

C エ

問二 (1) 土ほり動作

(2) 人と住むよ

問三 (1) 皮ふから排出される炭酸ガス

(2) エ

問四 (例) 下毛があまり生えていなくて毛も短いから。

問五 もつれた毛が板状になった〔犬〕

問六 ア

二題目

問一 A イ

B ア

C ウ

問二 湯たんぽ代わり

問三 イ

問四 高い栄養分をふくんだ特製フード

問五 イ

問六 (クジラやイルカなど) 海の中にすんでいる、ほ乳動物

問七 犬たちはその島で増

問八 エ

小6 国語 応用 テキスト 解答

一 題目

- 問一 マコトに「転校するな!」
- 問二 教室でマコト
- 問三 ウ
- 問四 泣きだしてしまいそう
- 問五 意外だった
- 問六 イ

一題目

問一 イ

問二 エ

問三 ア

問四 ウ

問五 マコトはぼくのことなんて大嫌い

二題目

問一 つまらない

問二 だめだよ、呟えた。

問三 ワンの小屋の前

問四 ウ

問五 a 胸の中

問六 b ワンのことはいつでも思いだせる

問六 ウ

一題目

問一 地球が温暖化する・南極や北極の陸地の上にある雪や氷

問二 4〔段落〕 3 6〔段落〕

問三 ウ

問四 イ

問五 9〔段落〕

問六 エ

一 題目

問一 エ

問二 地球温暖化

問三 低気圧・台風（順不同）

問四 しかし、温

問五 （例）雨が多かったところ

問六 イ・ウ（順不同）

二 題目

問一 エ

問二 イ

問三 カンアオイ

問四 ウ

問五 湖や池に 減ること

問六 ア

問七 熱帯地方がひろがる

小6 国語 応用 テキスト 解答

一
題
目

問一
ウ

問二
エ

問三
ウ

問四
(1)

問五
エ

(例)心細い気分だった。
ア・イ・オ・ク (順不同)

一
題
目

問一 ア

問二 赤や青の

問三 イ

問四 鈍い破裂音
ゝ ちてきた。

二
題
目

問一 エ

問二 イ

問三 エ

問四 イ

問五 イ

一 題目

問一 へつ目へ 家に帰って

へつ目へ 思えばあれ

問二 うまく割れるだろうか、という不安

問三 見届ける前

家に帰って (順不同)

問四 エ

問五 ウ

一 題目

問一 ウ

問二 一枚の木綿のハンカチ

問三 幼いころ、

りんごの浴 (順不同)

問四 りんごへの愛情

問五 A はかりしれない苦勞

B 数えきれない涙が流されている

問六 エ

問七 りんごのなみだ色

二 題目

問一 日本最後といわれる清流

問二 美しいな

問三 イ

問四 まず、キリのゝ できあがり。

問五 顔がこわばった

問六 簡単に

無責任に (順不同)

問七 つながって

問八 イ

小6 国語 応用 テキスト 解答

一 題目

問一 聴覚だけはほぼ完全に発達して

問二 ことばを聞かせる

問三 エ

問四 ことものころ

問五 ウ

問六 〈第一段落〉ウ

〈第二段落〉ア

〈第三段落〉イ

一題目

問一 ものとはことばの結びつきを自然な形で体得する〔過程〕

問二 A ア

B エ

問三 母乳語は とです。

問四 目に見え 指示示す〔ことば〕

問五 ア

問六 (1) ア・ウ・オ

(2) エ・カ

(3) イ

二題目

問一 a ものごと

b ウソがつける

問二 イ

問三 a 離乳語の習得

b つくり話やホラ話

問四 a

豊かなウ よくする

b こどもの てしまう

問五 イ・エ (順不同)

小 6 国語 応用 テキスト 解答

一
目
録

問一 イ

問二 A イ

B ウ

問三 イ

問四 博士とサンペイ君をのけ者にした

問五 イ

問六 サンペイ君の本

問七 ア

一題目

問一 ア

問二 イ

問三 ウ

問四 ア

問五 イ

二題目

問一 一人きり

問二 ウ

問三 (例) 女子全員が仲間はすれにされていた博士(とサンペイ君)を励ますためにチョコレートくれたのだということ。

問四 ア

問五 ウ

問六 (例) 自分はみんなと元通りに話すようになったが、サンペイ君だけが一人きりのままで、申し訳ないと思う気持ちになったから。

一 題目

問一 ア

問二 三(連)

問三 エー

問四 ウ

二 題目

問一 三(連)

問二 ① 飛行機雲

② 飛行機

問三 あくせく(過ごしていた。)

問四 ア・イ・エ (順不同)

問五 ウ

三 題目

問一 エ

問二 ア

問三 イ

問四 イ

問五 ③

④ エ

小 6 国語 応用 テキスト 解答

一題目

問一 イ

問二 エ

問三 (例) 太陽の光

問四 向日葵

二題目

問一 A (季語) 蟬 (季節) 夏

問二 B (季語) 柿 (季節) 秋

問二 A エ

問二 B ア

三題目

問一 ウ

問二 E

問三 (枕詞) たちねの

問三 (枕詞) がかかることば

問四 三(句切れ)

問五 エ

問六 ウ

問七 いちよつ(の葉)

問八 青蚊帳

問九 春雨

問十 ふるさとの訛

四題目

C
A
D
B

五題目

問一 A

問二 C

問三 D

問四 や

問五 エ

問六 B

問六 (1)

問六 (2)

問六 (3)

問六 (4)

問六 ウ

(1)

(1)

(1)

(1)

(1)

(1)

(1)

(1)

(1)

(1)

(1)

名月

菜の花

芒

朝顔

(2)

(2)

(2)

(2)

(2)

(2)

(2)

(2)

(2)

(2)

(2)

秋

春

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

秋

【ことばの単位】

① (1) ここに／荷物を／置いて／歩きましょう。

(2) 何年／たっても／忘れる／はずがない。

② (1) 今日／こそ／は／敵／の／船／を／見つける／の／だ。

(2) どうして／あなた／は／公園／に／来／なかつた／の。

【名詞・動詞】

① それ・一びき・虫・日本海・風・ところ・もの (順不同)

②

(10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)
ア イ オ ウ エ オ イ ウ エ ア

③ 勉強し・い・光っ・あわて・当て・かくし (順不同)

④

(4) (3) (2) (1)
着る
観察する
開ける
まちがう

⑤

(7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)
き こ きい おき むけれ まわら よん

【形容詞・形容動詞】

① (1) きつい

(2) まぶしい

(3) 正しい

(4) 大きい

② (1) い

(2) かっ

(3) けれ

(4) い

(5) く

(6) かる

③ 暖かい・ほしかっ・すばやく (順不同)

④ (1) おだやかだ

(2) まじめだ

(3) すてきだ

(4) 大切だ

⑤ (1) だろ

(2) な

(3) に

(4) なら

(5) だっ

(6) だ

(7) で

【副詞・連体詞・接続詞・感動詞】

① (1) 終わってから

(2) 大変な

(3) やさしい

(4) 急な

② (1) たら

(2) まい

(3) ように

(4) だろう

(5) か

③ (1) オ

(2) ア

(3) イ

(4) カ

(5) ウ

(6) エ

④ その・いろんな・小さな (順不同)

⑤ (1) カ

(2) オ

(3) キ

(4) アイ

(5) アウ

(6) エ

⑥ 派手な・高らかに・静かだっ・急に (順不同)

⑥

(4) (3) (2) (1)

ね ま は も
え あ い し
もしもし

【せる・させる／れる・られる／らしい／う・よう／たい・たがる】

① (1) せ
(2) させる
(3) せ
(4) せ
(5) させ

② (1) エ
(2) イ
(3) ウ
(4) ア

(1) エ
(2) イ
(3) ウ
(4) ア

③ ア・イ
(順不同)

④ (1) ア
(2) ウ
(3) イ

⑤ (1) たがる
(2) たかつ

① 【そ・うだ／よ・うだ／た／まい／ぬ・ない／だ・です】

(1) イ
(2) ア
(3) イ

② (1) ウ
(2) イ

③

(1) ウ
(2) ア
(3) イ

④

(1) ア
(2) イ
(3) ア

⑤

(1) なく
(2) なけれ
(3) なかつ

⑥

(1) で
(2) なら
(3) だろ
(4) な